

# 平成15年県内小・中・高・特殊諸学校 校内研究主題

郡市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	大里小	豊かに学ぶ大里小の子ども	一人一人の学びを作る評価の工夫を通して	総合的な学習や生活科において、子ども一人一人が、できるようになった自分意識し、自分なりの学びが連続するような評価について考えていく。	
	新紺屋小	たくましく創造性豊かな子どもの育成	算数の学習を通して	1学期は、きめ細やかな指導についての理論研究(TTと少人数指導を活用する授業形態)をし、2学期に実践授業をする。教科は算数。領域は、まだ、決定していませんが、一つの領域に絞って研究していきたい。	文部科学省放課後学習チューター調査研究事業
	新田小	心身ともに健康で、生き生きと活動する児童の育成	児童一人ひとりがめあてをもって取り組み、心と体を育む保健・体育学習を通して	今年度は、全教育活動のなかで健康教育を切り口として、研究を進め、児童一人ひとりが自分の健康、体力に関心を持ち、進んでより健康な生活を実践しようとする意識を高めることができるようにしていきたいと考えている。特に保健体育学習、特別活動(学級指導、児童会活動)などを中心に健康づくり教育を進め、児童一人ひとりの課題を明確にさせ、地域・家庭と連携しながら、実態に応じた指導の工夫を行い、健康生活への意欲と関心が高まるような支援	(甲府市)健康増進研究指定校
	池田小	基礎と基本の充実と自主的・主体的学習の創造	国語科における学力の明確化と指導法の工夫	国語科における自主的・主体的学習の創造に取り組む。児童の自主的・主体的な学習を保障するためにかかすことのできない基礎と基本の充実にも合わせて取り組む。	
	山城小	自ら学び主体的に問題解決に取り組む児童の育成	学力向上をめざす学びの創造	「学力向上をめざす学び」の求めるものは、一人ひとりの子供たちが自らの「学力」を鑑み、自ら或いは、他との共有する学びの中で自らをふりかえり、自分なりに学びを止揚しながら自らの「学力」を補完しようとするプロセスをあゆむことである。日々の教科教育実践の中に、一人ひとりの子供たちを大切に、豊かできめ細やかな学びの構築をめざし、指導方法や指導体制等の工夫と改善とに取り組んでいきたい。	(国)学力向上フロンティア事業、(県)基礎学力向上山梨プラン推進事業、(県)ふれあい道徳教育推進事業
	山梨大学教育人間科学部附属小学校	ひびき合い	自ら基礎基本を価値づけ、学びを実感する子どもの育成	子どもたちは様々なものやこととかわりそのかわりを成熟させ、変貌させて自分にとって必要な「知」を吸収し、生きる営みと不可分なものにしていく。その知的組織化の経験を豊かにするために教師は「可能性をもった学習教材」の提示や「かわりを意義あるものにする思考」の過程を用意する。子どもたちの学びは「ひびき合い」の場で、子どもたちの生活や学びからの知識や知恵や経験によって「知」の可能性の広がりを大きくする。子どもたち自身が学びの経験を価値づける姿・いきいき学ぶ姿を求めて今子どもたちにとって必要な「力」をみつめる。	総務省 次世代IT 総務省 e! プロジェクト 山梨県ボランティア活動推進校 総務省都市コミュニティー推進事業
	里垣小	主体的に取り組む子どもの育成	基礎学力向上のための「評価・指導」のあり方	・教科における基礎学力についての学習・教科の評価規準の作成・評価規準を用いた授業研究	
	相生小	たくましい心と体で生き生きと活動する児童の育成	地域や周りの人々との心のかよう交流を通して	開かれた学校づくりを推進する。地域や自分の身近な人々との交流や活動を通して、地域と家庭、学校の連携を図り児童の心身の育成を図る。	
	甲府東小	生きる力の育成を目指して	「総合的な学習」を通して	昨年度の研究を継承し、「生きる力」につながる資質や能力の育成を目指す。具体的には、学び方やものの考え方を身につけるための支援と評価の研究をすすめる。本校児童の実態を踏まえて、指導と評価の一体化を図る中で、児童一人ひとりに「学び方」が身につくような活動を仕組んでいきたい。また、自己評価、相互評価、他者評価(教師・保護者・地域の方々)等、多様な評価方法を取り入れていきたい。	
	春日小	豊かな心を持ち たくましく生きる子どもの育成	生きる力を育むための学習指導の工夫	今までの研究の反省や成果を生かして、今年度は、本校なりの生きる力や本校の子どもたちに育てたい力を設定し、授業研究を行う。その際、支援や評価の仕方にも目を向けて、研究を行っていく。また、教科学習と総合的な学習の関連をふまえた理論研究をしたり、基礎基本の定着を日常的に実践していく。その他、人材バンクの作成や総合的な学習と関連教科の一覧表なども研究を深め、作成していきたい。	
	玉諸小	豊かな心を持ち、生き生きと表現できる子どもの育成	教科学習と総合的な学習の時間との関わりを通して(2年次)	教科の基礎基本をどうとらえるか。また、教科と総合的な学習の時間と関連について昨年度研究してきた内容を元に、本年度は教科学習に視点を当て、総合的な学習の時間など、実際の場面で教科学習で身につけた力を生かせるような教科指導の在り方を探る。	
	貢川小	自ら学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成	一人ひとりのよさを生かす評価を通して	総合的な学習・生活科・各教科において一人ひとりのよさを生かせる評価のあり方を探る。総合的な学習では評価規準・評価基準表・学びノートの修正および使い方の検討をし、日々実践していく。また、国立教育研究所の評価規準をもとに、各学年ごと各教科ごとに評価基準の作成に当たる。	(県)地域ふれあい道徳教育推進事業指定校10月31日、(県)初任者研修授業研修会実習校
	朝日小	楽しく生き生きと学びあう子どもの育成	「確かな学力」の向上をめざした豊かな実践	昨年度より「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、今年度は二年目の研究である。「学力の向上=学ぶ意欲の向上」ととらえ、算数科で全学年を対象にしたTT(ティームティーチング)と高学年における教科担任制を導入し、指導方法の改善や個に応じた指導、少人数学習などきめ細やかな指導の一層の充実をめざした取り組みを進めている。	(文科省)学力向上フロンティア事業、(文科省・総務省)先進的教育用ネットワークモデル地域事業実践校、(日赤山梨支部)青少年赤十字活動実践推進校
	相川小	自ら気づき考え生き生きと活動する子どもの育成		「総合的な学習の時間」における各学年の「めざす子ども像」を明確にし、それに照らした授業研究を行う。また、年間計画の見直しを行う。低学年においては学習意欲を高めるための学習方法の研究を行う。また「放課後学習チューター」についての学習をし、計画を立て準備を	放課後学習チューターの配置等にかかる調査研究事業
	北新小	生きる力を育てる教育活動の創造	生活科・総合的な学習の時間における学習を支える評価の工夫について	体験的な学習や問題解決的な学習において、学習のめあて、児童に身につけさせたい力を明確にし、学習を支える評価のあり方を工夫することによって「生きる力」を育てる研究を進める。	
	穴切小	心豊かにたくましく生きる子どもの育成	放課後学習チューター指導配置に関する調査研究	放課後学習チューター指導配置に関する調査研究を中心に行う。	放課後学習チューター指導配置に関する調査研究
	石田小	共に生き、思いやり、高めあう子の育成のあり方を探る	～「ゆたかな心」を育むための実践活動を通して～	今年度、本校は昨年度からの小学生コミュニケーション活動推進事業に加えて、地域ふれあい道徳推進事業の指定を受けている。研究主題は昨年度からの継続とし、今年度は特に、学校教育目標にもある「ゆたかな」を育むために、教育活動全般にわたって道徳教育を意識し、心の教育を推進していく。その中で、昨年度まで研究を深めた国際理解教育とも関わらせていく。	(県)小学生コミュニケーション活動推進事業、(県)地域ふれあい道徳推進事業

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	琢美小	共に学び、共に育つ琢美プランの創造	情報活用能力を育成するための教育課程の充実	前年度作成した情報機器を活用した教育課程を教科や総合的な学習などの目標だけでなく情報教育の目標とも照らし合わせ、効果的な学習となっているか、適しているのかなどふり返りをしてさらに充実した教育課程を作ろうとするものです。	
	富士川小	確かな学力と生きる力を育む学習指導法の研究	基礎・基本の定着を図る指導と評価のあり方	国語科の教科指導において具体的な評価基準を明確にし、指導と評価の一体化を図り、基礎・基本を押さえた学習指導を行うことにより、確かな学力と生きる力をもった子どもを育成す	地域を育てる環境活動推進事業
	伊勢小	自ら学び、自ら考える子どもの育成	「伝え合う力」を育てることを通して	各教科・領域において、お互いの考えを高めたり深めたりすることができるような「伝え合う場」の設定の仕方を工夫し、実践授業を行い検証していく。また特に今年度は「話す・聞く」という音声言語に焦点を当てて研究していく。そして、一人ひとりが自分の考えを正確に伝え合うことができるように、日常的な支援も考えていく。	
	大國小	「伝え合う力」を育てる学習指導に関する研究	国語科を中心とした学びの開発	児童の伝え合う力を育てるため、国語科の「聞く・話す」領域を中心に指導法を開発し、実践を通じその有効性を確認する。また、日常生活における言語環境を整える。	
	国母小	広い視野を持って行動する子どもの育成	総合的な学習等の国際理解教育を通して	国際化や情報化がますます進む中、本年度は、国際的、グローバルな広い視野で物事をとらえ、国際社会と協調して逞しく創造的に生きる児童の育成を目指し、国際理解教育に視点を当てた研究を行っていく。異文化理解部会、国際交流部会、コミュニケーション部会の3部会を中心に研究を進めていく。	
	千塚小	自ら学び、創造的に活動する子どもの育成	主体的な学びを育てる指導と評価の一体化をめざして	低・中・高ブロックごとに教科を定め、生きる力を前提にして、その教科を通して育てたい力を明らかにした上で評価規準を見直し、指導に当たる。多様な評価方法を用いて子どもたちの現状を見取り、適切な支援を行い、指導を見直していく一連の流れを通して、子どもたちの変容を見ていきたい。しらべ学習室の整備等、昨年度に引き続き、継続して取り組んでいく。	
	羽黒小	国際理解教育に焦点をあてた「自ら学ぶ子供の育成」の試み	コミュニケーション活動（英語活動）を通して	社会的状況や新しい学校作りの考えを受け、国際理解教育の体験的な活動を通して、子どもたちが積極的に関わりを持とうとし、自分の考えや意志を表現しようとする英語活動の在り方を中心に研究を進めていくこととした。具体的には、小学校における英語活動の内容及び方法の在り方を探っていく。	小学校コミュニケーション活動推進事業指定校
	甲運小	かかわる、みがく、未来を拓く	教科・道徳・「総合」がひびき合う教育課程の研究	各教科・道徳との効果的な関連を持たせながら、総合的な学習の単元開発を進め、年度末には本校としての年間学習計画基本モデルを作成する。年度の前半は、地域ふれあい道徳研究指定校にあっているので、道徳と総合との関わりを研究実践したい。後半は、各教科との関わりを研究実践したい。	(県) 地域ふれあい道徳指定7月6日
	湯田小	「生きる力」を育てる教科の学習	「理科」を通して	・教科「理科」で身に付けさせたい力を明確にして学習内容を設定する。学習内容に関する、児童の既知の知識や素朴概念などの診断的な評価や学習途中の変容や学習後の変容（診断的評価）の評価を行う。評価に基づいて児童が自ら科学的に妥当な考え方を構築できるよう、指導課程、教材、指導方法を工夫する。児童に自らの考え方の変化を自己評価させ、学ぶ意義、学び方、自己の有能性を自覚させる。	学力向上山梨プラン実践校
	千代田小	いのちを見つめ、たくましく生きる千代田の子の育成（5年次）	新教育課程における効果的な評価の在り方（2年次）	まず、全職員で「生きる力」や「学力」「評価」について講師を招聘し、学習会を開き、共通理解を図る。昨年度作成した国語・社会・算数・理科・生活科の評価規準・基準表を日々の教育活動の中で活用していきながら、見直しを行う。さらに、昨年度からの課題である音楽・図工・家庭科・体育についても、どのような評価規準・基準表が有効なのかを検討し、作成していく。そして、具体的な評価方法等についても研究を深めていく。	
	小笠原小	一人一人を大切にす授業の研究	「総合的な学習の時間」の創造（国際理解教育を中心に）	小学生コミュニケーション活動推進事業推進校の指定を受け（2年目）、生活科、総合的な学習の時間の国際理解教育に位置づけて授業実践に取り組む。各学年、英語活動か、交流事業のいずれかの授業をする。	(県) 小学生コミュニケーション活動推進事業推進校指定+公開はしない
	南湖小	生きる力をはぐくむ授業の実践	総合的な学習、生活科の時間の題材開発を通して	総合的な学習のねらう「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」を育てるためには、子どもたちが興味関心を持ち、主体的・意欲的に学習に取り組めるような、魅力的な題材が必要となる。今年度はそうした魅力的な題材を授業実践を通して幅広く開発し、子どもたちが充実した学習活動を行えるようにしたい。	
	楡形北小	自ら学び、考え、判断し、行動する子どもの育成	プロジェクト学習をもとにした総合的な学習の時間の実践	1. 鈴木敏江の提唱する「プロジェクト学習」をもとに、総合的な学習の時間を行う。学習は「目標」や「ゴール」を設定してフェーズに従って活動することを基本とし、更に子どもたちにとって総合的な学習の時間が「生きる力」の育成につながるよう学習に工夫を凝らす。また、個に応じた適切な支援の方法を探っていく。2. 昨年度作成した「つきたい力」の実践・実証をする。	
	八田小	子どもが自ら課題をもち、追究する学習活動の創造	～基礎・基本を大切にしながら～	①基礎的・基本的な内容を確認するとともに、指導、支援の方法を、充実させる。教材の吟味・練る。子どもに付けさせたい内容と合致しているか。基礎・基本の学習によって、個性の一層の伸長を図る。教科指導(国語)②総合的な学習の時間の授業研究。本校の特色ともいえる独自の「総合的な学習の時間」<ユーカーリ>の課題や内容や指導過程、指導方法はどうかだったのか更なる検証。地域と一体となった環境教育活動の推進など。	(県) 地域を育てる環境活動推進事業指定校10月25日
	白根源小	ひとりひとりを生かす授業の研究	カルテ・座席表を生かした問題解決的な学習・総合的な学習を通して	「ひとりひとりを生かす授業の研究」を引き続き研究主題に据え、本年度も研究を行う。授業の中で個が生きて輝きを放つような流れを創り出すために、カルテをとり、子どもたちの事実から、その子を奥深くとらえる努力をしてきた。また、カルテをとりながら、常に新しく子どもを発見し、その発見を授業に生かしてきた。本年度は、原点に立ち返り、カルテによる子ども研究をより充実させながら、研究を進めたいと考えている。	
	白根百田小	教えから学びへ	読む力の定着ー国語科を通してー	生きる力を育てる・自ら学び自ら考える意欲をもつためには基礎学力、中でも目的に応じて文章を理解する力を読む力と考え、この力を国語科を通して定着させる授業づくりを行う。低・中・高学年別に、昨年度の研究をもとにしながら、子どもの実態をふまえて読む力をどのような迫り方でつけさせていくのか研究する。	(国) 歯・口の健康づくり推進指定校
	豊小学校	人間性豊かな児童の育成をめざして	自ら考え自ら学ぶ総合・いのちを見つめる総合の時間をとおして	『人間性豊かな児童の育成をめざして』 『人間性豊かな児童の育成をめざして』は、昨年度から引き続いてのテーマである。 『人間性』とは、講談社・日本語大辞典によると、「『人間性』とは、①人間としての本性。人間らしさ。人間に特有の本性。②人間だけが持つ当為・理想。ヒューマニズム。 『当為』とは、①まさになすべきこと。あるべきこと。目標となるべき理想の状態。②哲学で道徳的理想・価値。道徳上、その実現が絶対求められていて、意志や行為に内面的な強制・拘束を与えるもの。」とある。	
	若草小	基礎・基本の定着と自ら学ぶ児童の育成をめざして	指導と評価の一体化	指導と評価とを一体化させた授業の創造ということで、客観的な絶対評価を行うための評価規準と評価基準の作成、評価の場の設定、評価の方法の開発、学習活動を活性化させるための評価の工夫、基礎学力の定着を保障する指導法の研究を算数科を中心に行う。	地域ふれあい道徳教育推進校6月17日
	白根東小	豊かな心を育み、学ぶ楽しさ、学びへの意欲を培う教育活動の創造	総合的な学習の時間・生活科において自ら学び、表現する力を育てる学習支援のあり方をさぐる	昨年度に引き続き、総合的な学習の時間・生活科において子どもたちが自ら学び、表現する力を伸ばすことができることを目指し、児童の実態をふまえた児童のつきたい力を確認し、教師の支援のあり方を探りながら、研究を進めていく。また、各教科、道徳、特別活動と総合的な学習との関連や学年間の系統性も考え、教材の単元開発をしていく。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	若草南小	自分で判断し、行動できる子どもの育成	共に学び合い、高め合う関係づくりを通して	教科指導及び道徳において、学び合いの生まれる要素をさぐるための実践研究【研究の重点】 (1) 個人研究をベースにした教師同士の学び合い (2) 教室・授業をひらく (3) 他からの学習参加(保護者・地域等) (4) 学習臨床を中心とした研究 (5) 年間数回のブレインストーミング会を開き、子どもたちの今を考える	
	楡形西小	心豊かな人間性を育む教育課程づくり	各教科の基礎・基本を定着させるための指導法の	各教科の基礎・基本について学習し、本校なりの基礎・基本どらえをする。さらに算数に絞って、子どもが意欲的に取り組み、基礎・基本が定着できる指導課程をつくり実践する。	
	芦安小	自ら気づき、考え、豊かに表現する児童の育成	～基礎・基本の定着を図る学習支援・評価の工夫を通して～	昨年度に引き続き研究主題を「自ら気づき、考え、豊かに表現する児童の育成」とし、今年度は、国語科の授業において、少人数学級の良さを生かした学習支援・評価の工夫をする中で、研究主題の実現をめざす。生きる力を育む評価についての理論研究は、文献だけではなく、講師を招聘し、評価に対する共通理解を図る。学力テストを年2回実施し、児童の学習状況を考察し、授業改善を図る。授業研究を低・中・高ブロックで一つずつ行う。	
	大明小	子どもの自己学習力を育み、生きる力を育てる	総合的な学習の実践を通して	5年間続いた総合的な学習の研究のまとめをする年と位置づけ、昨年度作った評価規準を実践や研究授業の中で検証していく。また、生きる力を育むために「自己学習力」に焦点を当て、どうしたら子どもたちの力が高められるか研究していきたい。昨年度から、インターネットや本の利用が進む中、その内容の咀嚼度が課題になっている。他教科の基礎学力の充実を図りながら研究を進めていきたい。	
	白根飯野小	学び合い 高め合う 子どもたち	子ども一人一人が思考力や表現力を高めるための授業のあり方	今年度は図工・算数を手始めとして、一人一人の子どもの方・感じ方や要求・願いをつかみ、評価し、授業に生かす工夫をし、子どもたちが思考力・表現力を高める授業を創造する。	(文部科学省) 学力向上フロンティアスクール指定校 2月3日, (県) 基礎学力向上やまなしプラン2月3日
	落合小	自ら課題を見つけ、進んで解決しようとする子の学ぶ楽しさ、わかる喜び、できる喜びが実感できる授業の創造	総合的な学習を中心に	生活科、総合的な学習の実践を積み上げるとともに、評価の観点を定め、学習者と指導者がどのように評価していったらよいか研究を深めていく。	(国) 豊かな体験活動推進校
	竜王北小				
	敷島南小	豊かな心と健康な体を育み 自ら学ぶ児童の姿を求めて		知徳体の調和のとれた児童を育成するために、「問題解決力」は教科の学習を工夫することにより、「豊かな人間性」は道徳教育の充実を図ることにより、「健康・体力」は食に関する学習を拡げる中でつけていく。教育課程を工夫し教科指導の充実を図る。食に関する授業実践を、教科、道徳、総合的な学習の3分野の中で工夫して行う。豊かな心を育む道徳の授業実践を継続的に行う。	地域ふれあい道徳教育推進事業推進校7月2日(下学年)3日(上学年), 峡中地区学校給食研究協議会研究発表10月30日, 小学生コミュニケーション活動推進事業指定校, ボランティア活動推進校
	玉穂南小	自ら学ぶ子どもの育成	子どもたちが主体的にかかわる学びを目指して	①学校ピオトープについて 「ピオトープから考える自然」という視点に立ち、学校ピオトープ「たまなントープ」をどのようなものに造り上げていくのか理論研究と授業実践を行う。②学校保健についての研究と実践 「自らの健康を守るための望ましい生活のあり方」をテーマに授業実践を行う。	(県) 学校保健会) 学校保健研究指定校
	玉幡小	心豊かに、自ら学び、自ら考える児童の育成		体育科: 体を動かすことを楽しみ、友だちとの関わりを大切にしながら運動する体育の実践を通して。特に器械運動とボール運動領域の授業展開の工夫。道徳: 豊かな心を持ち、主体的に生きる力を育てる道徳教育の推進。	地域ふれあい道徳教育推進事業指定校7月4日 小中体連甲府峡中地区指定校11月7日
	竜王西小	生きる力を育む「総合的な学習の時間」の創造	児童が「学び方」を身につけるための学習活動の研究	総合的な学習の時間に児童が学びの主体となりうるには「学び方」がしっかりと身に付いていなければならない。そこで本年度は「学び方」に視点をあてた学習活動の展開や指導・支援について研究を進めることにした。・各教科の内容を分析し、総合的な学習に生かせる問題解決的な学力を整理する。・教科との関連を加味して「学び方」の指導計画・資料を作成する。・作成した指導計画をもとに授業実践をする。	
	敷島北小	基礎・基本の確実な定着をめざした授業の創造		算数科の教育過程や授業における教師の役割・指導法の工夫・教材の吟味をすることを通して、すべての児童に基礎・基本の定着を確実に図る。授業研究を行う中で各学年の基礎・基本の確認し、児童が意欲を持って算数的活動に取り組み、今まで身に付けてきた知識・技能・考え方を柔軟に活用し、筋道を立てて考え、新たに作り出す喜びや考え方の良さを味わわせるようにしていく。	
	竜王南小	生きる力を育てる学習指導	国語科の基礎学力の向上をめざして	自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力(生きる力) 育成の基礎となる、教科の基礎学力の向上を目指して研究を進める。研究にあたっては、国語科に焦点をあて研究を進める。国語科の本質や教科観の明確化や年間指導計画の工夫改善、基礎学力向上を重視した指導方法の確立等を研究の内容とする。	(県) 基礎学力向上やまなしプラン推進事業指定校平成16年度
	竜王東小	自ら学び、共に伸びる学習活動に関する研究	算数における基礎学力の充実と総合的な学習を通しての総合力の発揮をめ	算数の各領域の学年間の系統性についての再確認と基礎学力を確かなものとするための学習方法の研究。総合的な学習における指導視点の学年間の系統性の検討と支援の仕方の研究	
	西条小	心豊かに進んで学び、生き生きと実践する子どもの育成	算数科における、確かな学力づくりのための指導の具体化を通して	「確かな学力」を、「基本的な知識や技能にとどまらず、それを基にした思考力や判断力、学ぼうとする意欲をも含んだ学力」ととらえ、算数科における「確かな学力」の確実な定着をめざした授業づくりを通して、生き生きと活動する子どもの育成をめざす。	

郡市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	三村小	学びをひろく子どもの育成	一教科・領域における子ども理解と個に応じた指導の研究（特に初任者研修授業研究会実習校指定事業と関連づけて）	(1) 初任者研修と授業研究会の実施 ① 授業研究会実習校としての授業提供にかかわること【道徳・算数・国語・総合・特活】 ② 拠点校方式の導入校としてのその運営にかかわること ③ 初任者配置校としての職能成長について (2) 教科・領域における「学びを開く子ども」の育成にかかわる内容 ① 「学びを開く子ども」を育成するための基礎的理論研究 ② 課題設定または把握に対する支援について ③ 問題解決的な場面の取り入れについて ④ ポートフォリオ評価、学習材等を使った子ども理解のあり方	初任者研修授業研究会実習校指定事業
	敷島小	21世紀を拓く敷小教育の創造	豊かな心を持ち、よく考え、正しく判断し、実践できる子供の育成～「道徳の時間」を通して～	「生きる力」としての豊かな人間性を育むために、道徳教育の充実、特に「道徳の時間」の充実を図る。児童の実態を把握したうえで、「道徳の時間」を意図的・発展的に運営し、効果的な指導方法についての研究を深める。	
	田富北小	「生きる力」を育てる教育活動の創造	一人ひとりが主体的に参加し、互いに学び合い高め合う学習活動の工夫	生きる力を育てるため、教科・道徳・総合的な学習の時間等の教育課程における学習活動を見直し、児童が主体的に参加し、互いに学び合い、高め合う学習活動を探り、日々の学習活動に生かす。研究の内容は、理論研究、一人一実践の授業研究、各種研修と環流報告。	
	田富小学校	「『確かな学力』を育てる学習指導の創造に関する研究	「確かな学力」を育てる、学習指導と評価の一体化を通して	文部科学省指定の「学力向上フロンティアスクール」としての研究をおしすすめる。昨年の研究内容である、個に応じた指導方法・指導体制の在り方の研究も伏線にしなが、本年度の副題（去年から本年度のものも設定されていた）にも示されているとおり、学習指導と評価とを一体化させた授業の創造をメインに行っていくことで、確かな学力を育てていく。何をいつどこで、どのように評価していけば確かな学力の向上につながるのかをできる限り明らかにしていく。算数・国語・総合で行う。	(国) 学力向上フロンティア事業フロンティアスクール
	押原小	仲間とともにたくましく明日を生き抜く力を持つ子どもの育成	自ら学ぶ力を育てる学習をめざして	環境・国際理解・情報教育は、昨年度に引き続き実践をしていくことになり、本年度の特徴としては、総合学習が本格的に実践されて2年目になるので年間計画の見直しを行うことになった。三本の柱はどの学年にも共通するが、今年は、各学年の特徴を生かした総合の時間を研究実践していく。また、評価の在り方について全員が共通理解を図り、授業のなかで効果的に活用できるように研究をふかめていきたい。	
	常永小	自らの学びを拓く子どもの育成	「基礎・基本」の確実な定着と個性を生かす授業の創造	本研究は、平成15・16年度の基礎学力向上やまなしプラン研究協議会・山梨県教育課程研究委員会社会科部会の学力向上実践校として、社会科教育を中心に研究を行い、学校教育の充実を図ることを目的とする。	基礎学力向上やまなしプラン
	田富南小	主体的に生き生きと学習する児童の育成		本校独自の特色を生かし、学級実態を適切に反映した既製様式にとらわれない「個に応じた指導」のためのTT指導法と教材を工夫開発することにより、従来の一斉授業の範疇を越え、児童一人一人の力と個性を生かし、基礎的・基本的学力を向上させることのできる授業の創造をめざす。①様々な形態でのTT授業による積極的な授業提案の実施②学習意欲を喚起する諸条件を整備することにより、児童自身が意欲を持って、取り組むことができる学習プリント・ドリルの開発③学校を様々な音楽で満たし、学校生活を明るく、楽しい雰囲気溢れるようにする。	(県) 学力向上フロンティアスクール指定、(県) 基礎学力向上やまなしプラン(音楽)
	大藤小	主体的に活動できる児童の育成	個を伸ばす指導法の工夫を通して	学力検査の分析、考察をし、実態を把握する。基礎基本についての共通理解、個の力の分析の仕方などを講師を招いて学習会を開く。基礎基本の定着を図る学習法、個に応じた学習法の工夫などを、授業実践、研究授業による検証をしながら研究を進める。	
	神金小	豊かな心を持ち、自ら実践する子どもの育成	体験活動を生かした道徳の時間の実践	昨年度は子どもたちの生きる力を育成するために、確かな学力の向上を目指し、特に教科面から研究を行ってきた。本年度は生きる力の核ともいえる豊かな心育てる道徳教育に取り組み、教育活動全体での経験を生かした資料を開発し、道徳の時間を主に研究を進めていく。研究内容として、道徳教育全体計画の見直しを行い、評価方法や指導法道徳資料の効果的活用法についての理論研究を行い、研究授業等で検証を行っていく。	
	塩山南小	意欲的に生活を創り出す実践していく子どもの育成	確かな学力を育てる指導と評価の一体化をめざして	①各教科の基礎・基本の定着を図る学習指導法の研特に算数科において子どもたちへの支援の在り方を探る②評価についての研究、特に各教科の評価規準表のより効果的な活用と評価基準等の研究開発、観点別評価から評定までの一貫した評価システムの確立	(国) 特別支援教育推進モデル事業報告会現時点では未定
	奥野田小	自ら学び、生き生きと活動する子どもの育成	国語科学習を中心に「伝え合う力」を育てる	国語科の「伝え合う力」に視点を当て、さらに学習をして共通理解を深めたり、本校の実態を明らかにして「伝え合う力」の内容や指導法などを工夫したりしていきたい。また、活動の場面を子どもたちの学習活動や学校生活全般の中に設定することで、「話すこと・聞くこと」に対する子どもたちの意識を高め、「伝え合う力」の定着の機会としていきたい。	
	井尻小	意欲的に取り組み、自ら追究する児童の育成	個に応じた学習指導方法の充実を通して	思考力・表現力・理解力を身につけさせるためには、自ら追究して「できた」という成就感や満足感を子どもに経験させることが何より重要である。生活科、算数科において新たにティームティーチングを行うなどして、きめ細かな指導体制の充実を図る。生きて働く基礎学力の向上を目指し、児童一人ひとりの実態に応じた学習指導方法の工夫・改善を中心に研究を進め、意欲的に自ら追究する児童を育成していく。	学力向上フロンティアスクール、基礎学力向上やまなしプラン(生活科)
	玉宮小	生き生きと学び合う子どもの育成	子どもの意欲を引き出す支援のあり方	少人数の特性を生かし、児童がより生き生きと主体的に学び、子ども同士が互いに認め合い高め合うような学習活動を展開できる支援のあり方について研究する。また、一人ひとりを大切にしたい適切な評価をすることで、子ども達に自ら学んでいく力をつけ、自己の生活に生かしていくことができる「生きる力」の育成を目指し研究をしていく。	
	加納岩小	豊かな学力の育成	国語科・算数科を通して	国語科・算数科についての児童の学力等に関わる実態調査を行い、指導計画や指導方法を工夫改善する。教科の本質を再確認する中で、教科で今身につけたい力を検討し、明らかにしていく。日々の授業の中での、今までの個々の指導方法などを振り返り、改善したらよいと思われる方法などを予想を立てて試行し、実践的な研究を積み重ねる。	学習指導カウンセラー派遣にかかわる調査研究事業
	日下部小	学び合い、かかわり合う児童の育成	課題解決の展開と評価の研究、及びその実践	課題解決型の学習での課題の見つけ方、解決の方法の支援やその工夫、及び児童の活動の評価の研究。	
	八幡小	学ぶ意欲を高める楽しい授業の開発	知的好奇心を引き出す指導の工夫	教師一人一人の個性を生かし、子どもの知的好奇心を引き出すような授業を開発すれば、主体的に学ぼうとする児童の姿が見えてくるのではないかと考え、この主題を設定した。研究対象はすべての教科・総合的な学習で、全員が研究授業または公開授業を行って、仮説を検証す	
	山梨小	「生きる力」を支える基礎・基本の確実な定着をめざす学習指導の工夫	国語科・算数科における指導(支援)と評価の一体化を通して	国語科・算数科において、指導(支援)と評価の一体化と指導過程における評価について学習会を行う。また、研究授業では学習指導の展開に即した評価と支援について取り上げ、指導のねらいとして示された評価基準を学習のどのあたりで、どのように評価し活用していくか研修を	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	日川小	主体的に学ぶ力を育てる	総合的な学習の時間を契機にして	総合学習・生活科について今後の指針となるものを作成し、系統性を持った学びができる単元開発・実践を行う。(具体的には)▽教科から発展させた総合学習の内容を洗い出し、過去の学習履歴をもとにバランスのとれた学年毎のテーマを設定する。▽学び方や考え方が身につくような学びのプロセスを系統立てて設定する。▽児童の意欲が継続するような支援のあり方を探る。▽授業研究で検証する。▽情報機器研修	
	岩手小	生き生きと学習する児童の育成	基礎・基本の着実な定着を目指して	「基礎・基本」について検討・研究し、全職員での共通理解を図る。そして、主として算数科を中心に、基礎・基本を着実に児童に身につけさせる指導方法を研究する。また、同時に昨年度設定した評価規準を見直ししながら、指導に生かせる評価のあり方について研究していく。	
	後屋敷小	子どもたちに生きる力をはぐくむ研究	金銭教育への取り組みを通して	物質豊富で、利便性のある環境での生活で資源や環境に関する意識が薄らいでいるといわれる中で、ものや資源を大切に、有効に利用する教育の推進が必要である。金銭教育を通して、ものや金銭を大切にすることやこれを計画的に活用する生活習慣を身に付け「生きる力」を育む。具体的な活動、総合的な学習、各教科、道徳、特別活動の中で金銭教育に関する内容を整理し、知識・理解・実践的な態度、心情、生き方を育てる。	金銭教育研究校
	堀之内小	一人ひとりに確かな学力を	国語科の学習における基礎基本の定着	15年度の研究は、大きく2つに分けられる。前半に、外部講師を招いて学習会を開き、基礎基本の意味を明確にする。その後、全職員が共通理解のもとに学年ごとの基礎基本を明らかにする。後半には、それらをもとに基礎基本を重視した検証授業を2本行う。教師は、授業で押さえる基礎基本を十分理解して、クラスの子どもの実態に応じた授業を工夫する。	
	牧丘第一小	主体的に学び、いきいきと活動する子どもの育成	牧一カリキュラムの展開の工夫と学ぶ喜びを引き出す評価のあり方	総合学習及び教科の学習において、児童がいきいきと活動できる授業を仕組むとともに、児童が自己評価や相互評価する場面を位置づけ、主体的に学ぶ姿勢を育てることを目指す。また、過去3年間積み上げてきた牧一カリキュラムの展開を工夫し、地域や家庭・児童の声を取り入れ実態に合わせて改善していく。総合学習については、実践記録を積み上げ、本校なりの方向を再構築していく。	
	東雲小	自ら考え、判断し、実践できる子どもの育成	教育課程の創造と評価の在り方の実践を通して	意欲的な学びを支える教育課程の在り方の研究を進める。その研究の視点として、①「人間関係づくり」をめざしたカリキュラムづくりをする。②授業実践によるこれまでのカリキュラムの見直しを行う。③人間関係づくりに関わって「自他を尊重する心」の育成の視点から、道徳年間指導計画の見直しと授業実践を行う。また、一方においては主体的な学びの支援としての評価の在り方の研究を行う。具体的には、ポートフォリオ評価の研究と授業実践を行う。教科・領域等の規定は特に設けない。	
	牧丘第三小	主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力の定着を図る学習指導を通して	昨年までの研究の成果を受けて、さらに主体的な学習を進めていくためには、基礎的基本的な学力が不可欠と考え、本年度は基礎基本の中の基礎学力に視点を当てて研究を進めることになった。基礎学力の中でも特に、読む・書く・計算するということに限定し、個人がどれだけの力を身につけているか、どこにつまずき、どう指導していったらいいのかを考えて個人カルテをつくりその指導について研究を深めていきたい。	
	三富小	主体的に学び、生き生きと活動する児童の育成	個を大切に学習活動と、確かな学力の向上をめざして	「主体的に学び、生き生きと活動する児童の育成」～個を大切に学習活動と、確かな学力の向上～をめざして、1. 新教育課程に基づいた算数科指導の研究 2. 授業を実践する上で必要な教材・教具の開発 3. 各学年に応じた情報処理能力の習得と学習活動の中での教育用ソフトの利用やコンピュータなどの活用の研究を進める。	省エネルギー教育推進モデル校、ボランティア教育指定校
	菱山小	意欲的に活動する子の育成	自分の考えを言葉で表現する力の育成を通して	今年度は、児童の実態より「言葉による表現力の乏しさ」が課題としてあげられた。そこで、「自分の考えを言葉で表現できる力の育成」を目指し、以下の方法で研究を進めることとした。①聞くこと、話すことに関する実態調査を行い、学年ごとに課題を明らかにする②実態に応じて、学年ごとに指導の方針を立てる③年2回の研究授業と、一人1実践の授業公開を通して学び合う	
	祝小	自ら学び、自ら考える子どもの育成	国語科、算数科を中心として		
	勝沼小	互いに認め合い、思いやりの心をもって行動できる子どもをめざして	かかわりを大切に活動の工夫	互いに認め合い、思いやりの心を育てていくために、教科や道徳、総合的な活動の時間などの授業研究、児童会活動、読書活動、日常活動を通して、かかわりを大切に活動の工夫を行う。	
	牧丘第二小	主体的に学ぶ児童の育成	個の学びを高める手だてに視点をあてて	主体的に学ぶ児童の育成を中心に、それにせまるために今年度は、個の学びを高めるためにはどのような手だてをしていったらよいか、教科及び総合的な学習の時間について実践し、研究していく。低学年、中学年、高学年の各ブロックに分かれ、それぞれのブロックで学びを高めるための手だてについて研究していく。主に、国語の基礎基本となる聞く、話す、読む、書くをもとに、取り組んで行くようにする。	
	大和小	自ら課題を見つけ、自ら学ぶ児童の育成	地域から学ぶ「ひびきタイム」の創造と評価のあり方	本校は、ここ数年自ら学ぶ児童の育成をめざして問題解決的学習に関する研究を進めてきた。本年度は、地域から学ぶ「ひびきタイム(総合的な学習の時間)」の創造と評価のあり方をテーマに子どもの良さを引き出し、やる気を起こさせる評価をめざし、子どもたちの学習への取り組みと子どもたちの進歩をどのように見取るか、新しい評価方法(ポートフォリオ評価等)の活用を通して研究主題に迫りたい。	
	春日居小	主体的に取り組む児童の育成	地域を生かした授業づくりを通して	子ども達は春日居町に住んでいながら、町内のことをあまり知らない子が多い。自分たちの地域のことを授業にいかせて入れれば、きっと子ども達は授業や課題に興味関心を持ち、主体的に授業に望むようになると考えた。そこで、総合的な学習の時間や各教科および環境教育など多くの学習場面において、地域を授業に生かすことを研究し実践していく。	環境教育(公開はない)
	八代小	生き生きと活動する子どもの育成	伝え合い響き合うための活動を通して	研究仮説、学習活動(教科・道徳・総合的な学習・特別活動)に伝え合い響き合うための活動を位置づけることにより、生き生きと活動する子どもの育成がはかれるであろうの検証を行います。他に、生き生きと活動する子どもの手立ての実践、子ども理解を進める研究、集団の力量を高める研究も進めていきます。	県マルチメディア活用学校間連携推進事業の推進校、県小学生コミュニケーション活動推進事業指定校
	御坂東小	自ら考え、課題を見つけ、いきいきと学ぶ子どもの育成	総合的な学習の時間を通して	I 御坂東小学校総合的な学習の時間の充実 ○3年生以上の各学年ごとに、指導計画に基づいて実践を行う。また、実践を通して児童の実態に応じた指導計画の改善・再検討も行う。○実践を総括し、内容についての見直しを行う。①実践内容 ②指導計画の改善と再編成 ③評価の仕方 ④地域の人材や専門家の活用 II 領域別の実践	(県)地域ふれあい道徳教育推進事業
	芦川小	自ら気づき、考え、積極的に活動できる子どもの育成	基礎・基本の定着と、体験的・問題解決的な学習を通して	「総合的な学習の時間」と「教科」の授業を充実させていくための研究をしていきます。「総合的な学習の時間」については、地域素材を活用した授業作りの実践と学習指導計画の見直しをします。「教科学習」については、基礎・基本についての理論研究と基礎・基本の定着のための具体的手だてについて研究していきます。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	富士見小	自ら学び自ら考え主体的に学習する力の育成	体験的・創造的な活動の設定と教師の支援の工夫を通して	研究の重点を、「自ら学び 自ら考え 主体的に学習する力」を育成するために、教科（国語・算数・音楽）総合、特活（読書指導）において、子ども達一人一人の学習状況をより客観的にみとり、個に応じた指導（形成的評価）をどのようにおこなっていくべきなのか。特に評価した結果を、子ども達に伝えず指導をどのように行っていくのか。その時の望ましい教師の支援（目標と指導と評価の一体化）はどのようにあるべきかにおいていく。	東八代郡指定研究 公開+10月29日
	石和北小	自ら学び、自ら考える児童の育成	問題解決的な学習過程に、基礎・基本を身につけさせるための手立てを取り入れて	算数・社会、特別活動、総合的な学習の時間において、子どもたちに基礎・基本を確実に身につけさせるための手立てを研究し、自ら学び自ら考える子どもの育成を目指す。	（東八代郡）教育 協議会センター校 10月29日
	北小学校	豊かな心を持ち、自ら実践する子どもの育成	コミュニケーション活動を通した、学び合いのある授業づくり	教育活動全体において、学習形態を工夫したり、自分の考えを持つための教材の内容を考えたり、聴き合いや伝え合いの手だてや、友達との関わり合いがある学習過程を設定するなどの学び合いの場を設定し、主題に迫っていきたい。今年度は、上記の考えでは1年目なので、広い立場で各教師の特技を生かしながら、教師同士が学びあっていく。	
	一宮西小	夢や願いをもち生き生きと活動する子どもの育成	継続的な評価活動を生かして	学習集団づくりと国語科の授業づくりとにおいて、学習を支える評価活動を継続的に実践することにより、開かれた学級集団をつくり、人と関わり合い伝え合う力をもって、生き生きと活動する子どもの育成を目指す研究をする。	
	御坂西小	豊かな心と確かな学力をもつ子どもの育成	一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を通して	教科・道徳の授業の中に子どもの実態把握をいかしたコミュニケーション活動を仕組んでいくことにより、「相手を認め、相手とより良く関わっていこうとする子ども」「課題解決力を持つ子ども」「教科の基礎・基本を身につけた子ども」の育成をめざして研究を進める。	（国）学力向上フ ロントニア事業推 進指定校、（国） マルチメディア活 用学校間連携事業 指定校
	石和南小	豊かな心を持ち自ら行動する子どもの育成	一人一人の子どもの学びをともに深める活動をとうして	子どもの実態をふまえ、自ら学び自ら考える力を重視し、自ら学習する子どもをめざした授業づくり研究と、一人一人の生き方にせまる集団づくり研究と、学級活動・集会活動をとおして子どもの知的な発達や心の発達にせまる生き方につなげる教育環境づくり研究を行う。	東八代郡教育協議 会指定校研究+1 0月29日
	石和東小	自ら学び、自ら考え、生きる力を持つ児童の育成	振り返りの活動に視点をあてて	授業づくり、集団づくり、教育環境作りの3本柱で研究を行う。授業づくり部では、算数、体育を研究教科とし、課題解決的な学習過程に、振り返りの活動を効果的に行うことを投入因子としている。生活習慣病予防を考えるための教育環境作り、生き生きと活動する集団づくりも併せて行っていく。	東八代郡教育協議 会センター校、東 山東八小中体連研 究推進校10月2 9日
	中道町立南小	「わかる・できる」をめざした授業づくり	算数の基礎学力を保障する指導法の研修	算数の基礎学力を保障する指導法の研修。実態調査の方法確立。一人一人の教員の指導力の向上。	
	境川小	生き生きと活動し、基礎・基本を確実に身につけていく子どもの育成	一人ひとりの学びを大切に授業を通して	算数科では、課題解決学習に取り組み、こどもや教師の振り返りとして、学習感想にも取り組む。国語科では、教材研究の仕方を学習する。両教科とも、大学の先生を迎え、指導助言を積極的にいただく。	学習指導カウンセ ラー派遣事業
	一宮北小	進んで自分を表現する子どもの育成	一人ひとりに満足感を味わわせる指導の工夫を通して	昨年度より、自己表現力の育成を取り上げ、児童一人ひとりに適切な支援を行う中で、一人ひとりが自分の考えを大切に、進んで表現しようとする意欲づくりについての研究を行っている。自分の持つ願いや考えを自分にあつた方法でわかりやすく伝える力を身につけさせたい。加えて、友達と協力しながら個性を發揮しようとする姿勢や、互いに認め合い励まし合い切磋琢磨する中で学習活動に取り組む姿勢などを育てていきたい。	（県）地域ふれあ い道徳推進事業
	豊富小	自分の考えを持ち、伝え合い関わり合える子どもの育成	主体的な活動を育む手立てを通して	○研究目標 授業づくり・集団づくりの場において、学習の基礎・基本を大切に、主体的な活動を育む手立てを効果的に行い、自分の考えを持ち伝え合い関わり合える子どもの育成を図る。○研究内容①研究の基本的な考え方や方向性を明らかにする。②研究目標に基づいて実践し学び合う。③授業研究を行い、主体的な活動を育む手立てが目指す子どもの育成に有効であることを明らかにする。研修的な内容としてパソコン研修の実施	
	一宮南小	生き生きと学習する子どもの育成		研究仮説を「授業において、児童の認識過程に即した指導・学習を行えば、生き生きと学習する子どもの育成が図れるだろう」とおき、子どもたちの目が輝くような授業づくりをめざして研究していく。今年度は特に、これまで実践が重ねられてきた「授業構造仮説」を学ぶ中で、研究を深めていきたい。全教科を対象とし、講師を招いて研究をしていく。	
	市川小	自ら「見つめ、調べ、まとめ、表現する」子どもたちの育成を目指して	一教育課程の改善と評価を通して一情報活用能力を高める指導計画・方法の研究を通して一	教育課程研究として、前年度までに作成されている教育課程の検証する。評価に対する本校職員の共通認識を深める。子どもを伸ばすための評価を、授業実践を通じて研究する。絶対評価をふまえた、本校としての評価基準を完成させる。情報教育研究として、コンピューターリテラシーの検証と実践をする。情報機器の教育活動に置ける効果的利用を進める。又そのための職員の指導技術を向上させる。	
	上野小	自ら生き生きと学習に取り組む子どもの育成をめざして	上野小教育ニュープランの検証と改善を通して	評価基準を盛り込んだ年間指導計画作成、地域ふれあい道徳教育推進事業への対応、教科及び学習全般に渡る上野小児童に育てたい基本的な力とは何かの論議と焦点化。	地域ふれあい道徳 教育推進事業
	精進小	自ら考え行動する子どもの育成	総合的な学習の時間及び生活科での授業実践と新たな単元開発を通して	1. 総合的な学習の時間及び生活科の活動案をもとに今年度の児童の実態に合わせた授業づくりとその検証 2. 総合及び生活科の新たな単元開発と教育課程の再編成 3. 児童理解と教材作成のための研修	（郡）小規模学級 経営研究会授業研 究 10月
	市川南小	主体的に活動する子どもの育成をめざして	実践的な評価活動を通して	①評価（一人ひとりを認めること）について、本校の子どもたちの実態に合った実践的な研究を行う。②年間指導計画の見直しと改善を評価中心に行う。③授業研究・授業案検討・実践・実践後の検討・その後の子どもたちの様子を通し、振り返り、検証し、テーマに迫る。④パソコン研修（ホームページビルダーの使い方）を行い、ホームページの活用方法を考え、実践してみる。⑤先進校視察・研修等に参加し、研究を深める。	
	下部小	自ら考え、主体的に学ぶ児童の育成	問題解決的な学習を通して	「問題解決的な学習」を通して、「自ら考え、主体的に学ぶ児童の育成」をはかる。今年度で継続研究3年目になるのだが、特に教科を限定せず、多方面から主題に迫っていく。今までの研究成果の上に立ち、本校の実態に応じて構成した「問題解決能力」を育くむための学習過程のどのプロセスにどのような評価が必要か、特に自己評価能力を高めるための評価の在り方（カード・ノート指導）を中心に実践を通して研究を深めていく。	
	久那土小	響き合い、共に育ち合う授業をめざして		「響き合い、共に育ち合う授業」という全体テーマに関わって各自が個人研究テーマを設定し、課題に迫る。授業研究を中心に、「オーケストレイティングのある授業」（対話のある授業）を創り出すための素材とアプローチの方法探る。また、「オーケストレイティング」を生み出す過程での個への対応（ティラーリング）における教師の感性を磨き合う。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	六郷小	学びを問い直す		・自ら学ぶ力を育てるために「対話」のある授業をどう構成するか。その中で個々をどうとらえるか。・総合学習のねらいと評価項目の検証。・算数科における指導計画と系統性の検証と評価について。・算数科における基礎基本の明確化とそのため指導と評価。・自己評価のあり方と「あゆみ(通知票)」の内容の見直し	学力向上フロンティア
	上九一色小	自ら学び心豊かに生きる児童の育成	伝え合う力を高める国語科の授業を通して	国語科の授業において、伝え合う力を高める授業を工夫して実践することにより、生き生きと活動し、自ら学び心豊かな児童が育つであろう。を研究仮説とし、五つの言語意識を大切にしながら研究を進めていく。研究内容は、理論研究単元別評価規準の設定、評価方法の研究、伝え合う力を高める国語科の授業の工夫と実践、指導と評価の一体化を図った授業の実践である。研究授業を全学年実施することにより、研究の成果を検証していく。	
	大塚小	心身ともにたくましく主体的に活動する子どもをめざして	「他者から学ぶ力」を育てる授業実践を通して	学校生活において学習できる体と心を基礎として、1～6年生まで学習の基礎力をつけていき、授業の中で対話や交流などの様々な手立てを投じることで「他者から学ぶ力」がついていくと考えられる。さらに、自己の変容や成長を気づかせることができるような評価方法を工夫することによって「自ら考え、学び、行動する子ども」の育成を目指していきたい。	
	市川東小	主体的に活動し、学ぶ楽しさが実感できる授業作りを目指して	「小規模校の学習指導や環境教育の実践」を通して	子どもたちの主体的創造的に取り組む態度を伸ばし、一人ひとりの個性を大切にしながら総合的な学習や教科指導の研究また、地域の豊かな自然を再認識させ、自然や郷土を愛する心を育てると共に、環境保全のために活動するなど、地域の自然や人々を生かした環境教育実践を行う。	地域を育てる環境活動推進事業
	富士豊茂小	自ら学び・まとめ・表現する子の育成を目指して	地域に根ざした教育課程の実践を通して	地域に根ざした教育課程の実践・検証 ・20分(1モジュール)を生かした授業の研究実践 ・総合的な学習の系統的な指導の研究・実践 ・総合的な学習の時間の評価のあり方 ・地域の人材を生かした授業のあり方	
	睦合小学校	花と泥と太陽の教育の創造	「生きる力」を育む授業作り	教科(国語・社会・算数)の基礎基本をどうとらえ、また、教科と総合的な学習の時間との相互関連性をどのようにはかるか。	地域ふれあい道徳教育推進事業12月3日
	万沢小	「基礎的学力」とは何か、を求めて	算数科における基礎的学力とは何かを明らかにする。行事の充実をはか		
	原小	豊かな心を持ち、自立をめざす子どもの育成	基礎基本の充実と「総合的な学習の時間」「生活科」の創造(指導・学びと評価の一体化から)	「総合」と「基礎基本」の定着を車の両輪ととらえ、子どもたちがより意欲的に活動出来るように、指導・学びと評価の一体化に視点を当て「総合」の授業を創造する。同時に、基礎基本の習得を図るための研究を進める。	
	増穂小	実感のある学びを育む授業の創造	かかわり合い、学び合う「総合学習」の研究を通して	長い積み上げのある総合・生活科研究の視点を生かし、教科授業を含めた授業の活性化について理論・実践両面から研究。具体的には、総合・生活科の研究を通して、教科(昨年度より国語科・理科)研究を行っている。同時に、より効果的な授業研究手法についても研究してきた	増穂町センター校研究指定11月19日
	静川小	自ら学び、自分の考えをのびのびと表現できる子どもの育成	話すこと・聞くことによる表現活動を通して		
	西嶋小	「生きる力を育てる」	総合学習と基礎・基本を大切にしながら教育活動の研究を通して	授業実践を通して「総合的な学習の時間」「生活科」の単元構成の段階の研究を進めると同時に、「各教科」の学習過程において基礎・基本を定着させる。また「生きる力」としての「育てたい資質・能力」を明確しその育成を図るための手立てを探る。	
	早川南小	自ら取り組み、生き生きと活動する児童の育成	生きる力を育む体験的活動	生きる力は、体験の中から機能的に導き出された「経験」によって支えられていると考える。「経験」豊かな児童を育成するには、その何倍もの豊富な幅広い体験を児童に意図的に仕組んでいくことが必要となってくる。本年度、本校は「遠くのまち体験活動推進事業」の指定を受けており、より多くの体験的活動を児童が行うことにより、より多くの経験を児童が獲得していくことを目指している。	遠くのまち体験活動推進事業
	鵜沢小	心豊かに、たくましく生きる力を育てる教育の創造	自然や地域に学び、郷土を愛する心を育てる道徳教育の推進を通して	道徳教育において鵜沢町の自然や歴史を題材とし、また地域の方を外部講師として活用することをおして、道徳性を育てていくこと。	児童生徒の心に響く道徳教育推進事業+10月20日
	万沢小	「基礎的学力」とは何か、を求めて	算数科における基礎的学力とは何かを明らかにする。行事の充実をはかり、地域とのつながりを	第21回ひらぎ祭を地域の素材を生かした脚本づくりから劇づくりに発展させ11月に地域に公開する。算数について研究授業や日常の授業をととして各学年の基礎学力についての分析や指導内容について明らかにする。	
	身延南小	豊かな人間性の育成をめざす教育	子ども一人ひとりに生きる力を育む授業の創造	テーマに沿って低・中・高の3つのブロックに分かれて、研究を進め、課題に応じ全体で研究会をする。全体で行うものは、授業研究とその授業案検討である。今年度は、総合の時間と生活科と理科の予定	
	早川北小	自ら学び、行動する児童の育成をめざして	・新教育課程(総合的な学習・生活科)の実践と検証 ・アクティブ体力づくり異校種間・地域との連携	本校で昨年度完成した総合的な学習の時間・生活科の評価規準を含む年間計画を実施していく中で、さらに充実した内容のものにする。さらにその過程において積極的に情報機器を活用する。また、評価の方法についても研究を深める。今年度公開研究会もあり、指導案の形式、評価、総合的な学習の時間の創設の趣旨の再確認なども行う。	(早川町)早川町教育研究協議会指定11月18日、(県)山梨県体力づくり地域実践推進校11月18日
	曙小	自主的に学習する子どもの育成	少人数、複式学級の特性を生かして学習指導の工夫	・小規模校、少人数学級、複式学級における学習活動の不利点と利点の把握・少人数学級、複式学級における、特性を生かした学習指導、個に応じ、個を生かす指導のあり方・個人や小集団で学習課題を解決させる学習の内容や方法、活動の工夫・少人数、複式学級における伝えあう学習の指導のあり方・総合的な学習の時間の実践と評価・創作劇の製本作業	
	身延北小	生きる力を育む教育活動の創造	子ども一人一人に生きて働く学力を育む授業づく	自ら学び自ら考える力の育成、個を生かす教育の充実、学び方の学習への転換、指導と評価の一体化を図る学習指導の充実	
	身延東小	共に学び、共に生きる子どもの育成をめざして	地域に学ぶ、みのぶひがしの子	総合的な学習を中心に地域に根ざした教育・地域に開かれた教育を推進し、地域素材の教材化・地域人材の活用を図ると共に本校の特色づくりに努める。国際理解教育の研究を研究体制の中に組み込み研究を進めていく。	小学生コミュニケーション活動推進事業
	富河小	自ら学び、たくましく生きぬく子どもの育成	人や自然にふれ、自ら考え行動する子	総合的な学習の時間を中心に研究活動を推進する。特に、総合的な学習の時間の系統、及び、評価についての研究を実践を中心として行っていく。また、生きる力を育てるために、各教科固有の基礎基本を身につけさせる教育のあり方も探る。研究主題に関わる学校行事、児童会活動の充実にも取り組んでいく。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	五開小	感性豊かに輝いて生きる子	夢を育む「生活科」と「総合的な学習の時間」の創造	ねらいを達成するための「生活科」「総合的な学習の時間」の単元設定。「生活科」「総合的な学習の時間」の効果的な指導と評価の方法。	(国)児童生徒の心に響く道徳教育推進事業公開日未定
	増穂南小	主体的に活動し、夢を持って学びを広げる生活科・総合的な学習に時間の創造	課題を深化させるための工夫や支援のあり方	本年度本校児童に次のような力を付けたいと教師間で話し合った。・自己を見つめる力・お互いを認めあえる力・自分で判断し行動する力・最後までやりとげる力 こうした力を付けることで主体的に活動する子どもを育てることにつながると考えた。そこで、生活科・総合的な学習の時間を通して、一人ひとりの子どもにスポットを当て、一人ひとりの子どもに寄り添う授業の工夫や支援を研究し、個々(子ども)が課題を深化させていくことができるよう校内研を進めていく。	
	鯉沢中部小	進んで学び、考える子どもの育成	一人ひとりに学びのある算数授業の創造を通して	本校では、継続研究をしている算数科の学習を中心に、「進んで学び、考える子どもの育成」をテーマに、「生きる力」の中の特に「自ら学び、自ら考える力」を育みたい。知識の一方的な教え込みではなく、様々な理解度の違いを持つ子ども一人ひとりにわかる喜びや楽しさを味わわせたい。教師が、問題解決の場面において、個に応じた算数的活動を工夫することによって、一人ひとりがわかる喜びを感じられるであろうと考えた。	
	身延西小	学びを楽しむ子どもの育成	支援を工夫した授業づくりと評価のあり方の追究を通して	基礎・基本の力の定着をめざして学習内容や教材、指導方法を追究するとともに、支援と評価の一体化を図った授業の創造をめざす。	学力向上フロンティアスクール
	栄小	豊かな心を持ち、生き生きと活動できる子どもの育成	総合的な学習の時間の評価と読書活動の取り組みを通して	今年度は、昨年度までの研究の成果の上に立ち、昨年度手がけた総合的な学習の時間における評価規準の見直しを行っていくこと。また、県教委から委嘱された「わくわく読書活動推進指定校」を受け子どもたちの読書活動をより活発にすること。この2点の研究。	(県)わくわく読書活動推進指定校
	増穂西小	主体的・創造的な学びを展開する生活科、総合的な学習の時間を旨として	総合的な学習の時間に培う力の検証	自分が生きていく中でさまざまな問題に直面したとき、自ら学び、主体的に対応し、自分の力で判断し解決できる力をつける。	
	甘利小	意欲を持ち、主体的に学習に取り組む子どもの育成	一人ひとりが学ぶ楽しさを実感できる学習指導の工夫と改善	①子どもたちの学力や意識の実態・調査の分析や評価の研究②算数科における個に応じた指導のための指導方法・学習形態の工夫と改善③基礎的・基本的知識や技能の習得を目指した指導法の工夫	(文部科学省)学力向上フロンティア事業、(県)地域ふれあい道徳教育推進事業10月31日
	穂坂小	自ら学ぶ児童の育成～自己決定力を育む総合的な学習～		総合的な学習において教師が学習環境を整え子どもの実態にあった共通体験を設定したり指導法を工夫したりすることにより子どもが見通しを持った課題設定ができるようになるのではないかと考え、本校の特色を生かした総合的な学習の時間の在り方を研究していく。	
	韮崎北西小	「生きる力を育てる」		総合的な学習で、「課題追求」の場面に視点を当てて、「生きる力」をどのようにつけていくか研究していく。理論研究と授業研究をしていく。	
	韮崎北東小	共に生きることの大切さを学ぶ総合的な学習・生活科	子どもの学習を促す評価の工夫	総合的な学習の時間及び生活科において、感じる力・取り組む力・考える力を身につけ、人や自然とのつながりに目を向け、共に生きようとする子どもを育てるために、子どもの学習を促す評価はどうあるべきかを明らかにする。児童側からは、自己評価の工夫をし、自己評価能力を高め、教師側からは、支援のための評価に視点を当てて研究を行っていく。	
	韮崎小	意欲をもち、いきいきと自分の課題に取り組む子どもの育成	プロジェクト型学習を取り入れた総合的な学習の時間を通して	「総合的な学習の時間において、プロジェクト型学習を取り入れ、その各段階の「導入・追及・まとめ」の指導の工夫をすれば、一人一人が意欲をもち、いきいきと自分の課題に取り組む子どもが育つであろう。」を研究仮説とし、プロジェクト型学習の理論研究及び検証授業をして研究を進めていく。	
	明野小	主体的に学習する子どもの育成	一人一人が目標を持って取り組む国語科の学習を目指して	「国語科において、評価規準に基づいて学習活動を展開することにより、子どもたちに学習の目的が明らかとなり、意欲を持って主体的に学習する子どもに育つであろう」を概括仮説として研究をする。その内容として、評価規準に基づく評価基準の設定による筋道立った見通しのある学習の展開。学習過程に意図的・計画的に話し合い活動を取り入れることによる主体的な学びの育成。を中心として、授業実践を行い指導の改善工夫を図り、仮説の検証を行うことを	
	清里小	自ら課題をもち、追求する学習活動の創造	たくましく生きる力を育てる教育の実践	「生活科」「総合的な学習の時間」年間指導計画の見直し、単元開発と教材化、評価規準および評価方法の研究、地域の教育資源リスト作成、実践授業と学習発表会。基礎学力の定着を目標とした「朝の学習」の取り組み。	地域を育てる環境活動推進事業指定校
	小泉小	「自然」や「人」・「もの」を大切に作る心豊かな児童の育成		各教科・道徳・総合的な学習・特活等において、意図的・計画的に授業を実践することにより、自然・ものを大切にしようとする児童が育成されるだろうと考え、研究を進めていく。また、日常生活においても自然・人・ものを大切にしようとする実践的な態度を高めるために、学校と家庭・地域とが連携を図っていくように研究をすすめていく。なお、低・中・高学年ごとに、自然・人・もの・勤労に関わって具体的目標も設定していく。	(県)地域ふれあい道徳教育推進校10月17日、(県)金銭教育研究指定校
	須玉小	『心豊かに、たくましく生きる子どもの共育』	楽しい算数的活動を通して「確かな学び」を育てる授業の創造	「基礎基本を確実に身につける学習」と「心を育てる体験学習」を地域と連携して取り組み、心豊かにたくましく生きる子どもを育成することをめざす研究。学力を高める手だてとしては、算数的活動を通して、学ぶことの楽しさや充実感を味わいながら確実に基礎基本を定着させたい。そして、楽しい算数的活動や地域と連携した体験学習から「人との関わり」を通して『生き方』を学ばせたい。	山梨県数学教育研究大会 11月19日
	双葉西小	自分の課題に生き生きと取り組む子どもの育成	総合的な学習の時間におけるウェビング手法の研究	総合的な学習の時間において、学習過程の中に、ウェビングという手法を導入し、学習課題作りへの適切な支援と評価を行うことにより、自ら学び自ら考える子どもの育成に有効であることを明らかにし、総合的な学習の時間の充実に役立てる。	地域ふれあい道徳教育推進事業6月7日
	高根北小	自ら学び、いきいきと活動する児童の育成	意欲をもつ活動につながる自己評価の在り方	生活科・総合的な学習の時間において、児童が、生きる力を身につけるために意欲をもって活動することは大切なことである。その意欲を持たせるためには多くの要素が関係するが、そのうちで自己評価を研究していくことにした。研究で明らかにしたいことは、自己評価のとらえ方、自己評価が具備すべき条件、自己評価の実施方法、自己評価文などである。	
	白州小	豊かな心を持ち、地域に学び地域に生きる児童の育成	地域の人々と共に育む道徳教育のあり方を求めて	今年度は、「子どもが道徳性を育む場を総合的にとらえ、各教科や特別活動・総合的な学習の中で行われる道徳的価値に関わる学習と、道徳の時間を融合させる。そして、それらの活動の中に地域の人と交わることや体験的な活動を仕組むことで、児童の心に響く道徳教育を展開することができるであろう。」という研究仮説のもと、研究を進める。	(国)平成14・15年度地域の人材を活用した道徳教育推進事業指定校(保護者への公開=授業参観10月31日)
	泉小	いきる力をどのように育てていくか	基礎・基本の定着を図る国語科指導のあり方	国語科の『話すこと・聞くこと』における基礎・基本の力を明らかにする。その上で基礎・基本の定着を目指した学習指導の工夫をすることにより、主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う力を高め、生きる力を育成していく。	



都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	長坂小	よりよく生きようとする力を育む学校づくり	家庭や地域社会との連携を図りながら	地域ふれあい道德教育推進事業のし体を受けたことにより、昨年度までの「地域に開かれた学校」としての研究を生かして、家庭や地域社会との連携を図りながら道德教育を進める計画である。研究の内容としては、一つに地域との連携を図る具体的な方法を考えること、また、日常の道德の授業の効果的な方法及び、地域人材を活用した道德の授業のあり方、さらには、人的環境も含め学校内の道德的環境の在り方などを考えている。	(県) 地域ふれあい道德教育推進事業指定校
	高根東小	自ら学び自ら考えて活動する児童の育成	問題解決的な学習の実践を通して	①問題解決的な学習の理論研究、各教科や総合的な学習の時間での授業実践②子どもの思考に沿った問題解決的な学習の学習プロセスの検討及び検証③子どもの学びを高めるための具体的な指導・支援の検討④問題解決的な学習での評価のあり方⑤学習集団づくりの具体的な方法の	
	日野春小	豊かな心をもち、主体的に考え、実践する子供の育成	生きる力をはぐくむ授業をめざして	県教委指定の「地域ふれあい道德教育推進事業」の授業公開に向けて「家庭や地域社会との連携」を軸に道德・総合的な学習・教科における生きる力をはぐくむ授業を通して豊かな心育て主体的に考え、実践していく子の育成を目指す。また、指導と評価の一体化を目指し、意欲や関心など新しい学力感に立った絶対評価の在り方の追求、評価規準の教師間・学年間の格差が出ないように共通理解を図ることなどがある。本年度は、「授業部」「総合部」「教育課程」の3つの部を置き研究を深める。	地域ふれあい道德教育推進事業10月24日
	高根西小	自ら学ぶ児童の育成	主体的に学ぶための支援と評価のあり方	身近な教材を活用した教材研究の充実と授業実践。課題解決にむけた活動場面の工夫と、できた喜びを味わえるような支援と評価を取り入れた授業づくりの実践と研究。子どもの中での変容や到達度を看取るための自己評価、相互評価のあり方。全教科の授業実践を通して、よりよい指導法や評価のあり方を研究する。	
	双葉東小	生き生きと自ら学ぶ子どもの育成	基礎基本を重点とした指導法の研究	本年度は、教科中心の研究を行う。本校としての基礎基本とは何かを分析し、そのことに関わる研究を進める。生活科・総合的な学習の時間については、教育課程をもとに実践を行い、3学期に実践報告会をもつ。	
	増富小	自ら学ぶ子どもの育成	算数科、数と計算の領域における基礎・基本の定着を目指す学習指導のあ	算数科、数と計算の領域で、問題解決学習を行う中で、基礎・基本の定着をはかる。	
	小淵沢小	主体的に学ぶ児童を育てる「生活科」「総合的な学習の時間」の支援・指導に関する研究	地域のよさを生かした学習活動を通して	地域に根ざした活動の展開のために、子どもたちの活動の基盤を地域に定め、地域の施設や人材を最大限に生かした活動を「生活科」「総合的な学習の時間」の中で展開していく。ここで、きめ細やかな支援・指導をさらに深め、児童の学習の過程や到達度を評価していくことを加えて、支援・指導と評価の一体化を研究していく。	
	秋田小	よく学び考える児童の育成	～子どもたちの学びに添った指導援助を通して～	算数科の「数と計算」領域において、子どもたちがどのような学び方(解決の仕方・つまづき)をしているのかを分析し、適切な指導援助に努め、基礎・基本をしつかり理解できるようにするとともに、よく学び考える児童の育成をめざしていく。また、学校での学習と家庭学習との関連も図りながら研究を進めていく。	(町) 長坂町教育振興会研究指定、(県) 地域ふれあい道德教育推進事業
	武川小	児童の自ら学ぶ意欲や態度の育成をめざした指導実践の研究	総合的な学習の時間及び生活科の評価方法を通して	総合的な学習の時間及び生活科において課題解決的な学習を意識的に実施しながら、地域教材の活用方法や適切な評価のあり方を、授業実践をしながら研究している。	小学生コミュニケーション活動推進事業指定校、児童・生徒のボランティア活動普及協力校
	下吉田第一小	『明るく心豊かな子どもが育つ学校をめざして』	～国語科における基礎的・基本的な力を育む実践と評価のあり方～	(1) 国語科における基礎的・基本的な力を育んでいくための指導を工夫し改善する。 (2) 国語科における評価のあり方を探る。	
	下吉田東小	生きる力を育む学習活動の創造	身近な環境に関心を持ち、自ら課題を見つけ追求する子をめざして	環境教育についての基本的な考え方を踏まえ、環境教育に視点を当てた教育活動を見直し、環境教育の全体計画としてまとめ、授業実践を深めたり、体験的な活動を進めたりする。またできるところから地域に発信し、活動を深めるていく。	(県) 地域を育てる環境活動推進事業
	吉田西小学校	「生きる力」の育成	自分の考えを持ち、進んで解決できる子どもの育成をめざす評価方法の工夫を通して	各教科の学習課程において一人ひとりの学ぶ意欲を高めることの出来る評価方法を工夫する。具体的には、評価方法の理論研究、評価方法の工夫と活用を図った授業実践を行う。また、教育課程における(各教科)評価規準の作成を行う。	
	富士小	児童の生きる力の育成を目指して	地域素材や人とのふれあいを取り入れた学習活動を通して	各教科や道德・総合的な学習の時間において、児童が主体的に地域素材や様々な人々に関わるような学習活動の場を仕組むことにより、児童の課題解決能力や豊かな人間性を育てることをねらいとする。昨年度発掘した地域素材や、作成した人材バンクや地域マップを積極的に活用し、新たに付け足し充実させる。また、「地域との主体的な関わり」を重視した授業研究を行う。	地域ふれあい道德教育推進事業
	吉田小	知・徳・体を育み、「生きる力」を獲得させるための教育課程の創造	確かな学力を身につけさせる、指導と評価の一体化を図る授業づくり	昨年度作成した「評価規準表」を、授業実践しながら、工夫改善していく。評価活動を単元、授業の中に取り入れる(指導と評価の一体化)ことで、確かな学力の育成をめざす。教科領域は、学年の実態に応じて絞らない。	
	下吉田第二小	生きる力を育む学習活動の創造	国語科の「書くこと」を通して	「生きる力を育む基礎・基本の学習の充実」に視点を当て、国語科の「書くこと」の領域に焦点を絞り、その内容の理解(理論研究)と実践(授業研究)を進めていく。	
	明見小	自ら学び、追究し、生きる力のある児童の育成	基礎・基本を身につけさせ、主体的に学習する教科の指導法・評価の研究	目標標準評価(いわゆる絶対評価)の目的とする教科の基礎・基本を児童生徒一人一人に確実に身につけさせるため、評価に視点をあてながら、各教科の指導法と評価の研究を進める。 (1) 「生きる力」や「評価」「基礎・基本」等について文献や学習会により共通理解し、生きる力としての「基礎・基本」の見直しをする。(2) 「目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)」について学習し、評価の方法について研究を深め、授業実践する。(3) 各学年精選した目標を意識し指導に臨み、その実現をめざして指導を展開し評価規準を用いて授業をおこ	初任者
	谷村第一小	算数科における基礎基本を定着させる指導法の工夫		算数科における学力、基礎基本を明らかにする。その上で、基礎基本を定着させるために、全学年で指導形態の工夫・個に応じた指導方法・教材の工夫などの研究や実践を行う。また、基礎基本を学び取る過程を援助する温かい評価の方法についても合わせて考えていく。	地域ふれあい道德教育推進事業
	都留文科大学附属小	基礎基本の定着を図るための学習指導のあり方	算数科の学習を通して	教科学習の充実、基礎基本の定着に焦点をあてる。「児童に基礎学力をどうつけるか」という立場に立ち、基礎基本の定着を図るための学習指導のあり方を研究の中心に据える。算数科において、学習指導のあり方を多方面から工夫し、児童の学習意欲を高め、基礎基本の定着を図る。研究の内容として、附属小として身につけたい基礎基本の力の共通理解を図ったり、児童の学力の実態把握や「子どもの見取り」を行ったりして、指導・支援に生かす。	
	禾生第一小	確かな学力を身につけ主体的、創造的に生きる児童の育成	基礎基本の定着を図り、確かな学力を育む少人数学習の研究(算数科を通	学力向上フロンティアスクール2年次ということで全学年の算数科において習熟度別授業を中心とした少人数学習を行う。その際基礎基本の更なる定着を図るために、考える場の設定・発表の場の設定を効果的に取り入れて行くことが主とした内容である。	学力向上フロンティアスクール指定校
	禾生第二小	自ら学ぶ児童の育成	算数科における基礎・基本の確実な定着を目指し	算数科における基礎・基本について理論研究をする。算数科の基礎・基本を定着させるための教材や指導法を研究する。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	谷村第二小	「勉強って楽しい！」 「もっと勉強したい！」 子どもたちの喜びの声が 聞こえる授業の創造 ～基礎・基本を大切に した教科の学習を通して～		基礎・基本をどうとらえるか 基礎・基本とは何か 基礎・基本の定着のための手だて、指導法とその評価 教師の個性を生かした授業の創造	
	旭小	心豊かに生きる力の育成	総合的な学習を通して	①総合的な学習についての理論研究②各学年で授業実践を行い、ブロックで一本公開授業をする。③総合的な学習の時間の指導計画（実践記録）の改善。④コンピューターの操作の学習会及びホームページ整備。⑤地域素材、人材バンクの再点検と地域への啓発。⑥国際理解については、実践研究とする。⑦授業の自主公開を可能な限り行う。⑧基礎学力の調査をする。（国語）	
	東桂小	自ら学ぶ子どもの育成	基礎・基本の定着を図る 指導と一体化した評価について	①評価（全教科・領域）についての理論研究（文献・指導主事などからの助言） ②評価と一体化した授業実践と実践をもとにした評価方法の工夫改善 ③評価規準の設定 ④評価基準表の作成 ⑤通知表「あゆみ」の検討 ⑥指導要録に関する共通理解 ⑦学校評価について ⑧参考資料の収集 ⑨先進校視察と復命 ⑩職員対象のパソコン研修会の実施	放課後学習チューター研究指定校
	宝小	豊かな心を持ち、道徳的 価値を身につけた実践的 活動のできる児童の育成	地域の人々とのふれあい 活動を通して	教師の観察による児童の道徳性の実態把握。道徳に関する各種計画の見直し。道徳授業の指導過程、指導の工夫。道徳関係資料の収集・作成。これらの研究を進めながら、今年度は地域人材を活用した授業の実践を行う。授業については、教科・道徳・総合・学校行事等あらゆる分野で人材活用を探っていく。	児童生徒の心に響く道徳教育推進事業＋11月19日
	船津小	生きる力をはぐくむ学習 指導の創造	「考える習慣」を身につ けるための基礎力づくり	「考える習慣づくりのための基礎力を、生活や授業の中で意識的に培っていくことにより、児童一人一人が考えることの楽しさを知り、主体的に考えていくようになるであろう。」を概括的な研究仮説とし、学年・ブロックごとに具体的な仮説を設定し、国語科を軸として授業実践	
	勝山小	自ら学ぶ児童の育成	「聞くこと・話すこと」 の指導に視点をあて、伝 え合う力を育てる	「話すこと・聞くこと」について児童の実態を把握する。系統的な指導のあり方について検討する。国語科での「聞くこと・話すこと」の意図的指導と授業検証をする。他の教科や領域の学習の中でも、「話すこと・聞くこと」に視点を当てた指導を試みる。	
	鳴沢小	自ら学び、自ら考え、表 現する児童の育成	表現力を高める話し合い 活動の研究	各教科、領域、特別活動において（各ブロックに任せこれから確定する）話し合い活動を仕組み、児童一人一人の言語表現力を高めることをねらう。そのため、話し合い活動を充実させるための支援の手だてのあり方（評価を含む）を研究していく。評価部会と授業研究部会に分かれて研究するが、授業研究部会を中心に提案授業をしていく。	
	道志小	生きる力をはぐくむ学校 づくり	七里っこタイムの実践を 通して	第1校時の前に15分の「七里っこタイム」を設定し、漢字の学習を中心に、子どもたちに基礎的な学力を付けていこうとする研究。アンケートやテストを実施して、指導の効果を数値化して試していく。	
	西浜小	心豊かで生き生きと主体 的に活動する子どもの育 成	子どもの思いを大事にし た実践の工夫	理論研究として、関係資料や文献を収集し、学習し、共通理解を図ったり、指導主事や講師を招請し、理解を深めたりする。実態把握のために、本校の子どもの実態調査をし、本校の子どもにつけたい、育てたい力を明らかにし、学校全体で目指す子ども像をつくる。授業実践し、指導主事や講師に指導助言してもらおう。また、技術研修としてコンピュータなど教育機器の操作について学習会を行う。	
	河口小	自らの生き方をきりひら く子の育成	「人・もの・こと」との かかわりから生活をみつ める学習を通して	本校独自の課題解決的な学習「生活をつみこむ学習」を通して主体的に学んでいける児童をめざす。低学年は生活科、中学年は総合的な学習の時間、高学年は家庭科において実践的に研究を進める。家庭との連携、地域に根ざした教育を行う。研究の成果は10月24日に公開す	
	山中小	生きる力を育む学習活動 の創造	自分の思いや考えを豊か に表現する子どもの育成	昨年度の研究を継承し、授業実践を中心に研究を進める。児童の実態を踏まえ表現力に重点を置き、各教科やあらゆる教育活動との関連を図りながら生活科・総合的な学習の時間を通して表現力を高める研究を進める。	
	秋山小	自ら取り組む子どもの育 成	総合的な学習の充実をめ ざして	総合的な学習の充実をめざし、年間指導計画の見直しと各教科・道徳・特別活動との関連を研究する。	地域ふれあい道徳教育推進校
	山中湖村立 東小	豊かな表現力を育む学習 活動の創造	地域の環境・人材を活用 した総合学習を通して	地域に目を向け、地域の身近な課題を解決する学習において、地域の人材を積極的に活用していく中で、子ども達が自己の考えや感動、様々な情報などを他の人に伝えるにはどうしたらよいか、また、どんな方法をとったらよいか考え、それに意欲的に取り組む態度を育て、子ども達の表現力を高めていきたい。総合的な学習を通して研究を進めていく。	小学生コミュニケーション活動推進事業
	小立小	子どもたちの基礎学力を 向上させるための研究		①先進校の取り組みを学習し本校の今年度の具体的取り組みについて検討する。②本校の児童に即した到達目標を各学年ごとに作成する。③教材・プリント類を作成する。④モジュールの時間等を活用して反復学習をさせ定期的に評価する。⑤評価をもとに実践を考察し指導の改善	
	西桂小	子どもが育つ学びをさぐ る	効果的な指導法に焦点を 当てる	英語、算数、国語、学習集団作り、情報教育の5つの領域に分かれ、それぞれ課題を設定し研究を進める。課題は「効果的な朝学習の進め方」「学びの楽しさを実感する授業」「伝え合う力を育てる指導法の工夫」「共に学ぶあう全員参加の授業を目指して」「使いやすいパソコン室を目指して」実践を通して効果がある指導法かどうか客観的な評価を通して成果を探る。学びの自覚化を通して子ども自身の成長を意識させる。	
	忍野小	「豊かな人間性と限りな き可能性を追求する忍野 の子の育成」	「総合的な学習の時間」 における支援の工夫を生 かして	(1) 支援の工夫に視点をあつた授業実践 (1. 2年は英語活動) (2) 臨地研修の活用 (3) 評価観点と評価規準についての確認・見直し (4) 「総合的な学習の時間」の指導計画の見直し・修正	
	大石小	自ら考え、自ら人と関わ り、行動していく児童の 育成を目指して	生きる力を育むための、 道徳教育における指導方 法の工夫	実態調査を行い、本校児童の道徳性を把握する。児童の生活全般を視野に入れながら、道徳の授業内容を考え、児童の実践力を呼び起こすための指導方法を工夫し、実践を重ねていく。授業研究をし、互いに授業を見合いながら効果的な方法を探る。また、学習したことを生かす場面を設定し、児童の実践を記録する。	
	大嵐小	自ら考え自ら実践する大 嵐っ子の育成	基礎・基本の定着を図る 授業づくりを通して	教科学習に焦点を当てて、基礎・基本の定着をめざした授業づくりを通して主題に迫っていきたいと考えている。まず、「自ら学び自ら実践できる児童」とは、どんな児童を指すのか共通理解を図る。次に、基礎・基本について明確にしていく。今年度は、算数と理科を中心に研究していきたい。授業づくりにあたっては、評価計画も盛り込み、子どもたちが「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わえるような授業をめざしていきたい。	
	笹子小	確かな学力の向上をめざ して	基礎・基本を充実させる ための支援	研究仮説を「国語・算数において、1時間の授業の中で評価活動を行い、個に対応した指導を行えば、基礎・基礎の定着が図られるであろう」とし、①算数・国語の「学習の内容」「学び方」の基礎・基本の洗い出し ②支援の方法③有効な評価方法の研究 ④研究授業の実施 ⑤学力検査結果の考察	

郡市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	猿橋小	しなやかに学ぶ子どもの育成	子どもの見取りとその支援	問題解決的な学習を軸とする学びの道筋を拓く総合学習や生活科・各教科において、価値ある題材に出会わせる切実な場を設定し、一人ひとりが課題に対して解決していく学習の姿を深く見取り、子ども理解をすることから適切な支援をすることによって、子ども達がしなやかに追究していく力をつけることができるだろう。そのために、カルテをとり、座席表授業案、位置づける子どもを手がかりとした授業の学び返しやその根拠となる理論を学ぶ中で、全員の授業提案による授業研究会を実施する。	
	強瀬小	自ら学び、考え、主体的に活動する子どもの育成	総合的な学習・生活科において、自己評価能力を育成する。(ルーブリック評価を通して)	総合的な学習の評価規準を5観点から作成したものをもとに、ルーブリック評価を作成する。	
	七保小	意欲的・主体的に取り組む児童の育成	基礎的・基本的な力を身につけさせ、確かな学力の育成を図ることを通して	国語科の基礎的・基本的な力を身につけ、「わかる楽しさ」「できる喜び」味わわせることから、意欲的・主体的に学び、活動する児童を育成することに迫っていこうと考え、研究を進めていく。本校児童につけさせたい国語の基礎的・基本的な力について、児童の実態を考慮しながら検討し、それを身につけさせるための手だてを研究し、実践していく。	
	宮谷小	自ら学ぶ子どもの育成		研究主題を『自ら学ぶ子どもの育成』とし、総合的な学習における各教科の基礎・基本の定着を目指した授業づくりと地域に根ざした総合的な学習について研究をしていく。本校における基礎・基本事項の洗い出し及び重点化などの研究内容で進めていく。	
	畑倉小	認めあい 高めあい とともに生きる子どもをめざして	自ら考え、表現する活動を通して	総合的な学習の時間における評価活動の工夫を行い、評価と指導・支援の一体化を図りながら、自ら考え、表現する力をつけ、お互いのよさを認めあいながら生活していこうとする子どもの育成を目指す。エイズ教育(性教育)においては、年間計画に従い授業実践し、正しい知識を与えとともに、自分も人も大切にしたい意志決定が出来る子どもの育成を目指す。	エイズ教育(性教育)推進地域事業
	大月東小	主体的に学び、生き生きと活動する子どもの育成		研究主題の「主体的に学ぶ」や「生き生きと活動する子ども」のとらえ方を共通理解する上で、新学習指導要領に関わって「確かな学力」「各教科の基礎基本」をどうとらえるかの理論研究や研究対象教科(部会ごとに決定した教科・算数等)の系統の洗い出し等を行う。また、低・中・高学年部会ごとに「確かな学力」を身につけさせるための(研究対象教科の)授業をどう工夫したらよいか有効的な手だてを探り、検証する授業研究を実施する。	
	梁川小	自ら学び・考えることのできる「やながわの子」を育てる。	豊かな心の育成と学ぶ力の向上をめざして	昨年度の研究を踏まえ、教科研究として算数の数と計算の領域を取り上げ、実態把握、算数的活動の工夫自己評価の取り入れ、評価基準の活用方法を考えながら、主題に迫る。又、地域ふれあい道德教育推進事業の授業公開を受け、「主として他の人とかかわりに関すること」の項目について研究し授業を公開する一方、学習や指導の改善に役立てる評価規準の作成にも取り組み、評価を考えた研究授業を通し、研究を深め検証する。	
	鳥沢小	自ら学ぶ児童の育成	学びの姿勢を高める手だて	各教科の時間において、学習のあり方を子どもの側から見直し、ひとりひとりが自ら学び、考えることができるような授業づくりをめざす。そのための教材選択、指導方法を研究してい	
	上和田小	自ら考え、自ら学ぶ児童の育成	伝え合う力を高めるための指導法の研究	各教科や道徳、日常生活において、伝え合う力を高めるための、授業展開や指導法の工夫を考えていく。今年度は、特に、「伝える」活動の前段階として「書く」活動を取り入れたたり、「話し手」と「聞き手」の交流をしたりすることで、伝え合う技術を高めていく研究をしてい	
	瀬戸小	主体的に学習する子どもの育成	総合的な学習・生活科の実践を通して	主体的に学ぶ子どもを育てるために、3年生以上は、総合的な学習を、1・2年生は生活科の授業実践を行う。研究授業・実践報告・めざす子ども像の検討・評価の検討・地域素材の見直	
	大月西小	自ら考え実践する子どもの育成	生活科・総合的な学習の時間の実践を通して	生活科・総合的な学習の時間において、地域の特色を生かし課題解決的な学習をつくりあげ、自分の成長やよさに気づくような評価を行っていけば、自ら考え学んだことを自分自身の生活に生かす子どもを育てることができるであろうと考え、学習教材の見直しと評価のあり方を研究していく。具体的には、生活科・総合的な学習の時間のなかで育てたい資質や能力を明らかにし、各学習過程でどのような活動をさせ、評価をしていくか研究する。	エイズ教育
	初狩小	生き生きと活動する児童の育成	楽しく学び合う国語科の学習	国語科の学習の授業研究を行うことで、国語科の指導法の研究を行う。本校の児童が課題である自分の考えを持って表現することに視点を置いて研究を行う。現在の国語教育の情勢や国語科における基礎・基本とは何かという面にも触れながら研究を行っていく。領域については、「読むこと」「話すこと・聞くこと」のどの点に視点を置くか検討中である。	
	浅利小	自ら考え、活動する児童の育成	認め合い、高め合うための授業のあり方	昨年のふれあい道德指定校としての成果をふまえ、さらに道德の授業研究を深める。道德先進校を視察し、実践に生かす。大月市エイズ教育推進地域事業2年目の取り組みとして、性教育の授業研究を行う。昨年作り上げたあゆみの評価規準の見直し(評価規準簿の見直しも含む)	エイズ教育(性教育)推進地域事業
	下和田小	その子のよさが生きる授業の創造	生きて働く基礎学力の定着を目指して	生きて働く基礎学力にふさわしい学習内容を吟味し、「学んだことが生活や学習の中で再現したり転移したりでき、次の学習や活動の原動力となる内発的な意欲を喚起できる授業」の実践	学力向上フロンティアスクール
	大鶴小	進んで学び考える児童の育成	国語力を高め、表現する力を獲得する	児童の「学ぶ力」を高めるために、理解や思考、表現などすべての学力の基礎となる「国語力」について研究する。そのために、今年度は音読や朗読、暗唱を取り入れ、言語感覚を養い、伝え合う力を高めていきたい。目的に応じて適切に理解したり表現したりすることで、児童の学習理解も深まり、さらなる意欲へつながる。また、昨年の研究の継承として、グループエンカウンターを用いた道德の実践や全校で取り組む三世代ふれあいまつりの方法と評価につ	
	四方津小	自ら学び自ら考える児童の育成	「伝え合う力」を育てる指導を通して	(研究仮説)国語科の「話すこと・聞くこと」の学習活動において、「伝え合う力」を育てる場作り、個に応じた指導方法の工夫を図ることにより、「伝え合う力」を持って意欲的に活動する児童の育成が図れるであろう。(研究内容)①「伝え合う力」に関する事前調査・事後調査を行い、児童の実態と学習成果を把握する。②「伝え合う力」を高める指導方法に関する理論研究及び実践報告を行う。③各学年の「話すこと・聞くこと」の年間指導計画を作る。④「伝え合う力」を育てる場作り、個に応じた指導方法を工夫した授業実践を行う。	小学生コミュニケーション活動推進校、ボランティア活動推進校
	島田小	自ら学ぶ児童の育成をめざして	基礎基本を重視した授業の工夫	児童の実態を明らかにする。また国語や算数を中心に教科の本質、基礎基本のとらえ直しを行う。そして、それらに照らし合わせて重点的に身につけさせたい力は何かを明らかにし、また指導法を工夫する。	
	桐原小	生き生きと自ら活動する児童の育成を目指して	地域とのかかわりを大切にした活動の工夫	生活科や総合的な学習の時間は、興味を持って自分で課題を見つけ、いろいろと考えて行動し、課題を解決し、それを表現していくことを学ぶ場である。そこで、子どもたちの課題意識を大切にしながら体験的な活動を伴った課題解決的な活動実践することで自ら考え実践する児童の育成を図る。	
	沢松小	地域に親しみ豊かな心をもった沢松っ子の育成をめざして	子どもが輝く「総合的な学習の時間」の創造	総合的な学習の時間(生活科)における評価規準および評価基準を明確にし評価を行う。その妥当性・有効性について検討する。	
	小菅小	自ら学び、自ら考える児童の育成をめざして	成就感をもたせる評価を通して	評価規準を明確にした上で、一人一人が生きる学習活動を展開し、教師の評価・自己評価・相互評価などで成就感を持たせる評価を行えば自ら学び、考える力を持った児童の育成を図れると考え、一人一人実践を行う中で研究および検証を行っていく。教科・領域は多岐にわたるが、それぞれの教科において、また、児童の発達状況に応じて適切な評価が履かれるようにブロック及び全体で研究にあたる。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	西原小	自分を表現し、他との関わりを大切に育てる子どもの育成	評価を生かした主体的な学習活動の展開と指導の工夫	昨年度の継続研究として、全校で国際理解（主に総合や生活、学活）に関わる活動を行い、本校の総合的な学習の進め方を確立し、評価活動について共通理解を図る。また、各教科において評価を生かした学びや支援について研究する。具体的には本校の評価基準をもとに授業研究を行いながら実践の中で研究していく。	
	上野原小	確かな学力を身につけさせるための指導法の工夫	算数科を通して	「確かな学力とは何か」を追求し、算数科を通して、指導法・指導体制について研究をする。全学年研究授業を行い研修の場とする。学年間の系統性を学ぶとともに、評価基準についても検証する。本年度は、10年経験者研修と連携して行う。	
	甲東小	意欲的に学ぶ児童の育成	～確かな学力を身につけるための指導法の工夫～	ここ数年教科学習については、あまり取り上げてこられず、子供たちの学力についてももう少し考えてみる必要が出てきた。本年度は、子供たちにとっての本当の学力がどういったものなのか、また、学力を付けるためにはどういった働きかけが必要なのか学力についての理論研究をするとともに授業実践を通して考えていきたい。	
	大目小	生き生きと学習する児童の育成	コンピュータの効果的な活用を通して	基礎・基本の定着を図るための一手段として、コンピュータを効果的に活用することにより、生き生きと学習する児童の育成に迫っていく。そのために、コンピュータを活用した授業の理論・実践研究（反復学習・習熟度別学習・調べ学習）を行い、また、授業に生きるソフトの選択を行う。初年度であるので、教科は特に限定せずに行う。	
	丹波小	自ら学び意欲的に活動する児童の育成をめざして	生きる力を育む各教科の学習を通して	①国語（話す聞く）・算数（数学的な考え方）の評価について＜少人数集団に対応した評価についての研究＞＜使用しやすく、体系的・継続的な評価ができる評価表等の開発＞②年間指導	
	東中	自ら考え、学び、行動する生徒の育成	形成的評価を生かした授業実践を通して	①各教科における学習活動への形成的評価の位置づけ（評価場面・評価方法）②学習計画表の作成③目標評価の具体的な方法について④評価基準表の修正	
	南西中	自ら学び、たくましく実践する心豊かな生徒の育成	指導と評価の一体化を目指して	各教科において、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、学習過程や支援方法、評価方法を工夫して取り組んでいく。生徒の実態・目標を明確にし、適切な支援を行い、評価をし、その評価を次の指導につなげていくための研究を行う。	
	南中	学習や生活の課題に気づき、進んで解決しようとする生徒の育成	指導と評価の一体化を目指した授業研究を通して	各教科、生徒の実態に応じて、目標に準拠した評価規準を作成していく。そして指導と評価の一体化を目指した授業づくりを進める中で生徒の学びの姿をとらえながら学習や生活の問題点に気づき解決方法を考え、意欲的に追求活動に取り組んでいくといった問題解決能力を伸ばし	
	甲府北東中	自ら学び、自己実現を目指す生徒の育成	評価方法の検討とその生かしかたの研究をとおして	新教育課程が完全実施された昨年度、今まで研究を重ねてきたものを実践してみた。ところが、実際取り組む中で上がってきた問題も多く、中でも評価については、生徒へのフィードバックのしかた、教師の授業に対する改善材料としての使い方、高校入試への対応、ひと学年を複数教師で教える場合や教科間での評価の共通理解の不足などたくさん問題が内在しているように思う。今年度は、その中でも必修教科の評価方法の共通理解を中心課題として研究を	
	西中	自ら学ぶ生徒の育成	基礎基本の定着を通し確かな学力の向上を目指して	学力向上フロンティアの指定を受け、以下の2点について研究を深める1、基礎基本とは何かを求めながら、その定着を目指し、学力の向上を図る（教科研究、課外学習研究）2、個に応じた学習の研究（数学、英語における習熟度別クラスの研究）	学力向上フロンティア指定校 来年度公開
	上条中	主体的に考え判断し、行動する生徒の育成	学習の状況や成果を振り返らせる自己評価の実践を通して	自己の学習に対する状況や成果をできるだけ具体的につかまえる自己評価を全教科で実施し、学びへの意欲を喚起する。	（国）学力向上フロンティア実施事業 未定
	北西中	心豊かにたくましく生きる力を持った生徒の育成	よりよい教育課程の確立を通して	昨年度までの研究を引き継ぎ、教育課程のさらなる改善を求めての実践と検証。	
	城南中	生きる力を育む「総合的な学習」とその評価	人との関わりを通じた自己表現力の育成を目指して	本校では総合的な学習を2年間かけて研究してきた。本年度は3年次として1年生から3年生までの学習を通してコミュニケーション能力を高めるための年間指導計画の完成とその評価のありかたについて本校なりのまとめをしていく。また学力向上フロンティア事業指定校として全教科において確かな学力の定着を「意欲」という柱を設けて実践研究を行っていく。	学力向上フロンティア事業指定校
	富竹中	進んで課題を見つけ、主体的に学ぼうとする生徒の育成	集団との関わりの中で「自立」の力を育む実践を通して	集団や人との関わりを有効に使いながら、一人ひとりに自立の力をつけさせるような取り組みを、研究しながら実践していく。具体的には、①「自立」の身として求められる力とは何か。②個の自立を促すような影響力を持つ集団とはどのような集団であるか。③個の自立を念頭に置いた集団との関わりのある実践としてどのような者が考えられるか、どのような活動が仕組みめそうか。④③の視点で考えられた取り組みの実践と評価	地域ふれあい道徳教育推進事業公開日なし、地域を育てる環境活動推進事業公開日なし
	甲西中	豊かな学校環境の中で確かな学力を目指す生徒の育成	基礎・基本の定着を図る学習指導と評価の工夫	学習活動において、既習事項を生かしながら根拠を元に筋道を立てて考える力を育てたい。そのための指導援助やさらに効果的な評価を重ねる中で、生徒自身が自分で方法を工夫したり、生徒同士学びあうことで、充実感や満足感が味わえるような必修・選択教科における指導と評価の一体化を目指したい。	（文部科学省）豊かな体験活動推進事業、未定
	楡形中	「生きる力」を育む特色ある学校づくりをめざして	一人ひとりが主体的に取り組める場の設定と評価の工夫	「教科」における基礎基本の習得と、生徒が主体的に学び考えるなどの生きる力を育成するための工夫。観点別評価の具体的方法と評価資料の研究。「総合」の評価基準の作成、実践のデジタル化と共有。	
	白根御勅使中	自ら学び、自ら考え、実践できる生徒の育成	学ぶことの喜びを実感できる授業づくり	なぜだろう、どうしてだろうと疑問に気づき、その課題を意欲的に追究しようとする態度を育て、生徒が主体的に学習に取り組み、学ぶ意義や喜びを実感できるような授業づくりをする。そのために、基礎基本を楽しく定着するための工夫やつまずきのある生徒への支援方法を各教科で研究する。また、総合的の時間では各学年主題から課題を明らかにして（テーマ設定）その解決に向けて自分は何ができるか考えていく力を培う。	
	若草中	主体的・創造的に活動できる心豊かな生徒の育成	生きる力を育む授業の研究	「教科（必修・選択）」「総合的な学習の時間」などの評価のあり方、基礎学力を身につけさせるための各教科の実践及び検証、地域ふれあい道徳推進校としての取り組み	地域ふれあい道徳教育推進校
	八田中	「総合的な学習」をとおしての生きる力の育成		本校はこれまでに「総合的な学習」の研究を行ってきた。その中で課題として「個人テーマによる学習の可能性と限界についてきちんと把握しなければ、次の段階に進めない。」ことが、あげられた。「個人テーマ」は総合的な学習を進める上で、最終的な目標だと考えている。その達成のために、現時点での振りかえりを行い、さらに「総合的な学習」を深めていきたい。そのために「テーマ設定の段階」「課題追究の段階」「まとめ・発表の段階」に分けて研究したい。	
	白根巨摩中	やる気をもった人間性豊かな生徒の育成	新学習指導要領に基づく授業及び評価の再構築に重点をおいて	これまで重点課題として新学習指導要領に基づく授業のあり方及び評価方法の再構築を取り上げてきた。これまでの研究に検証と修正を加えながら生徒のやる気をより引き出していくための評価方法の研究を深めていく。	
	芦安中	主体的に活動する生徒の育成	ふれあいの中で自分の生き方を探る総合的な学習の支援法の研究	研究内容は、総合的な学習についての支援法。分類すると以下の3点。①ガイダンスとテーマの決め方。②資料の収集と情報のまとめ方。③発表と評価。又、各教科の基礎基本の徹底及び総合的な学習との関連についても討議する。	
	竜王北中	豊かな心を持ち主体的に活動する生徒の育成	学ぶことのよろこびを実感できる授業づくり	昨年度から2年間にわたり文部科学省指定の「竜王町地域指定生徒指導総合連携推進事業」を受けて、生徒会活動とリンクさせながら保護者をはじめ地域との連携のもと開かれた学校づくりをめざして研究していく。	道徳 10月2日
	竜王中	自ら学び、心豊かで、たくましく生きる竜中生の	心に響く道徳授業の創造	地域ふれあい道徳事業をきっかけに、日常の道徳授業の充実を図り、特に地域人材を生かした道徳教材を研究、実践する。	地域ふれあい道徳11月1日

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	田富中	生き生きと主体的に学ぶ生徒の育成	「生きる力」に焦点をあてた授業の展開と評価方法の構築	ここ数年、新教育課程について取り組んできたが、課題として①「生きる力」の具体化②3年間を見通した総合的な学習の展開③個性を伸ばす授業展開④絶対評価の工夫があげられる。授業実践をし、学習意欲の喚起が図られる授業展開の工夫を研究しあい、さらに評価方法の再構築をしていきたい。さらに、研修会や先進校視察など行いたい。	
	押原中	一人一人の個性を生かす教育を創造し、基礎・基本の定着をはかりながら学力の向上を目指す。		①「学力とは」の共通理解 ②個に応じた指導 個々の生徒の学力を把握する。③T Tを活用した指導方法・指導体制の工夫改善。④選択教科の拡充を生かした指導方法・指導体制の工夫改善 ⑤学力の評価を生かした学習指導の工夫改善 ⑥朝の10分間の総合の時間を基礎学力の向上に生かす。⑦授業規律の確認 ⑧生徒会活動など生徒が主体的に取り組む態度を育てる活動の研究。	文部科学省 学力向上フロンティア事業
	玉穂中	粘り強く課題に向かう生徒をめざして	基礎学力の定着と向上を図る指導の工夫、個の自立を促す民主的な集団づくりの実践	【1】教科指導に関すること①学習目標の設定と分析⇒生徒の学習目的・学習課題を明確化と意識化、②授業展開の流れの工夫⇒認識への発展段階・目標への到達段階としての意義付け、③教材の選定と精選⇒資料の発掘、教材化と活用、教具の活用 【2】学級集団づくりに関すること①小集団を中心とした活動⇒自治的・能動的な集団の形成②生徒の指導力の育成⇒指導・被指導の人間関係づくり③民主的な原理の確立⇒討議・決定・実行の行動原則の確立④心情に訴え、感性を高める活動⇒読解力・理解力の向上	基礎学力向上やまなしプラン推進事業（数学）
	玉幡中	生きる力を育む学習指導と評価		本校では過去3年間「生きる力を育む教育課程のあり方」として研究を進め、「たまづみタイム」の設置、選択教科の拡大、新しい評価方法などを中心に研究を進めてきた。そして昨年度は新しい教育課程における「生きる力」をつける評価のあり方や評価規準作成を中心に研究を進めた。本年度は「地域ふれあい道徳推進事業」の実施年度でもあるので、道徳教育にも力を入れながら、教科（評価の仕方）・道徳・特別活動（たまづみタイム、学校行事）を通して、さらに「生きる力」の育成を目指す意味で本主題を設定した。	（県）地域ふれあい道徳推進事業指定校10月22日
	塩山中	生きて働く基礎学力の定着を図る教科指導について	評価と指導のかかわりを通して	「学習」「評価」「総合」の3部門に分け研究を行い、昨年度のものをたたきだとし、検証と改善を中心に研究を進めていく。各教科、学年を中心に研究を行うが、共通認識が必要なものについては、全体で研究をしていく。	
	塩山北中	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	新教育課程における指導と評価の実践を通して	1. 新教育課程実施2年目としての昨年度からの継続研究（目標に準拠した評価いわゆる絶対評価についての研究と実践） 2. 地域ふれあい道徳教育指定校としての研究 3. 新しい指導体制についての研究	地域ふれあい道徳教育推進事業
	松里中	生きる力を育成する教育の創造	客観性、信頼性を高める評価と総合学習の研究を通して	昨年度から新しい学習指導要領が実施され、それにともない本校では、評価のあり方に関する学習、評価基準の作成、評価方法の工夫改善を研究・検討し実践してきた。また、総合学習においても、福祉領域における講座選択制における縦割り学習などの実践も行ってきた。今年度は、昨年度の研究の成果をふまえて客観性、信頼性を高める評価方法について更なる研究・実践することが重要であると考えている。また、総合学習においても、福祉領域における講座選択制に更なる領域を取り入れ、生徒のより主体的な活動を図っていききたいと考え、本研究主題を設定	
	山梨北中	確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究	個に応じたきめ細やかな指導を通して	生徒の問いや学習者の論理が大切にされた授業の実践・各教科における個に応じたきめ細やかな学習指導の工夫とその実践・教科との融合を目指した総合的な学習の新カリキュラムの実践と課題の明確化・社会科の少人数指導の実践と課題の明確化・数学科の少人数習熟度別学習指導の実践と課題の明確化・音楽科のTT授業の実践と課題の明確化・山北タイム（放課後の時間帯）の有効な活用法（補正・補充・質問等）の検討とその実践	（文部科学省）学力向上フロンティア事業
	山梨南中	目標に準拠した評価方法の研究と実践	2学期制下における評価のあり方の検討を通して	① 小単元（10単位時間程度）の内容について、指導・評価計画をつくる。② 形成的な評価と総括的な評価の関係を明らかにして、形成的評価を取り入れる。③ 学期の途中での評価を生徒と保護者に伝え、学習の改善を促す。	
	勝沼中	基礎学力を育む教育活動に関する研究		1. 基礎学力の共通理解を図る。2. 各教科で反復練習の学習の機会を設ける。3. 興味関心を高める工夫をする。4. 少人数・習熟度別学習に取り組む。5. 絶対評価の評価方法の改善をする。6. 教育課程の改善に取り組む。	学力向上フロンティア事業、基礎学力向上やまなしプラン推進事業実践校
	春日居中	「生きる力」を育む教育課程の創造	新教育課程の総合的な研究を通して	総合的な学習の時間「春日居さがしの時間」の実践研究及び評価についての研究を深める。環境教育に関する研究と実践。評価についての研究。理論研究・先進校に学ぶ研究の学習会。	地域を育てる環境活動推進事業
	笛川中	「自ら課題に気づき、解決する生徒の育成」	「生きる力」を育む、学習活動づくりを通して	本年度笛川中学校では、教育課程研究、学年研究会、道徳・特別活動・教科指導を含む領域指導研究会の三つの研究会にそれぞれ職員一人一人が所属し、内容を深めていくつもりである。特に今年度は、教科の「絶対的評価」に関わる評価方法の一層の改善を図り、内容の検討を行なう予定である。各学年で実施している「総合的な学習の時間」の実践も他の学年にも紹介できるように深めていきたい。	
	大和中	自ら学び、意欲的に考え、主体的に活動できる生徒の育成	道徳・学級活動の時間を通して	道徳教育に関する研究については、昨年度の道徳研究の成果や課題を生かし、さらなる道徳研究についての見直しを行い、研究授業実践を行う。また、学級活動に関する研究についても、昨年度の研究をさらに発展させ、小集団学級の特徴を考慮した学級づくりの研究を授業実践を	
	御坂中	意欲的に学び、生活を主体的に創り出す生徒の育成		①全教科の授業の中に、お互いを認め合う場面をつくることによって意欲的、主体的に学ぶ生徒を育成する。 ②短学活（朝の会、帰りの会）をお互いに見せ合う。 ③評価に関わっての見直し。	マルチメディア活用学校関連推進事業、地域ふれあい道徳推進事業指定校11月14日
	笛南中	課題に気づき主体的に学ぶ心豊かな生徒の育成	適切な評価と支援をふまえた授業づくりをふまえて	昨年度、文部科学省より、新指導要領の下、様々な教育改革の流れがあり、評価が、相対評価から目標に準拠した評価（絶対評価）へと変わり、各校における「評価規準の作成、評価方法の確立」が、学校現場に求められてきている。そこで、本年度は、数年来の研究の成果と課題をベースとして、新たな教育課程の編成やさらには、教科における評価活動に焦点を当て取り	
	芦川中	地域に根ざし、生きる力をもつ生徒の育成	教科指導と総合的な学習の時間の活動を通して	総合的な学習の時間において地域をに根ざした取り組みを計画的に実践し、教科の授業において評価を取り入れた学習を実施することによって生徒の生きる力を育んでいこうという研究内	
	一宮中	課題に気づき、主体的に活動する生徒の育成	指導と評価の一体化を通して	全教科において、生徒の学習改善につながる指導と評価の一体化に立った実践を継続して行い、より効率的な評価方法の工夫と評価から評定への結びつきについて研究を行う。また、総合的な学習の時間の年間指導計画による実践と見直し、評価方法、発表方法についての研究を行う。集団づくりにおいては生徒一人一人の役割を明確にし、個に応じたよさや可能性を生かす指導、援助の研究を行う。	（県）地域ふれあい道徳教育推進事業11月7日
	石和中	主体的によりよく生きようとする生徒の育成	生徒理解を基盤とした、教科指導・学級づくりの工夫	まだ今から検討する予定ですが、途中のものを載せます。日常の教科指導、学級づくりにおいて生徒理解の理念に基づき、指導法を学び実践することにより、より主体的活動する生徒の育成に取り組む。授業づくり、学級づくり、家庭・地域部会3つで研究する。また、昨年度も実施した「生徒実態アンケート」を今年度も行い、実態把握や検証に加える。	（国）マルチメディア活用学校関連推進事業、（国）サポートチーム等地域支援システム事業

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	浅川中	学習や生活の課題を持ち、仲間と共に解決しあう生徒の育成	相互交流への支援の工夫	授業において、他を認め、理解し、学びあう場を設け、人に学び人を学ぶよう支援することによって、仲間と共に自己の資質を高められるような他との関わりが図れるようになるであろうと考え、授業を通してコミュニケーションする力を育成する。3年継続研究の3年次。授業は原則として全教科を対象とする。ただし、昨年度も全教科で実施しているので今年度は一考が必要と考えている。	「文部科学省指定学力向上フロンティア事業（H15-16）11月」「県教委指定基礎学力向上やまなしプラン（H15-16）」を兼ねて西八代郡学校保健会指定
	市川南中	自ら考え、判断し、主体的に活動できる生徒の育成		昨年度の引き続き、郡学校保健会指定の保健教育の研究を中心に「ストレス」について教科・道徳・特別活動などを通して研究推進を行う。また、学習評価の問題についても研究を進めて	
	久那土中	豊かな心を持ち、主体的に生きる生徒の育成～生徒にわかりやすい授業のあり方と評価のあり方～			
	下部中	確かな学力をもつ生徒の育成をめざして	教育課程上の工夫を指導にどのように生かすか	1朝学習の具体的な運用方法とその内容についての研究。2各教科における小集団学習の実施と授業研究・レポートによる提案。3選択教科の指導計画・指導方法の改善。4教師が学習指導のための時間を確保できるように校務の効率化をはかる。	
	市川中	人間性あふれる生徒の育成	生徒の成長を支援する評価の研究	生徒の意欲や積極性を引き出す評価をすることで、生活や学習に主体的に取り組む生徒を育成することができ、生徒の成長を支援し、人間性をより豊かにすることができるだろうと考え、各教科の研究授業を中心に研究計画を立てた。研究授業の中で必ず評価についての項目を入れ、各教科の評価の方法を互いに学びあい、研究主題に迫りたいと考えている。	
	六郷中	心豊かで意欲的に活動する生徒の育成	授業展開・学習形態の工夫と改善を通して	(1)「学力とは何か」(2)「学ぶ意欲とは何か」(3)生徒の実態をどうとらえるか(4)各教科の「基礎的・基本的内容」について(5)「基礎的・基本的内容」を身につけさせる指導*指導内容(教材開発)*指導方法、指導体制(TT等)*個に対応した指導、学習形態(小集団学習、個別学習等)*ステイティングの工夫*年間指導計画の見直し*評価方法の見直し	山梨県学力フロンティア事業学力フロンティアスクール
	上九一色中	自ら学び、考え、行動することができる生徒の育成	指導と評価の一体化を目指して	各教科において、指導に生かす評価方法の充実を図り、生徒一人ひとりの課題意識を喚起する指導と評価のあり方を研究することで、自ら学び、考え、行動できる生徒の育成をめざす。	
	三珠中	心豊かでたくましく主体的に活動する生徒の育成	生徒の心に響く道徳教育を目指して	生徒の心に響く道徳教育を実践するために。1.道徳の授業の充実を図る。指導法の工夫。生徒の心に訴えるような教材の研究。2.地域と連携した道徳教育の推進についての研究。	(県)地域ふれあい道徳教育推進事業指定校
	早川中	『生きる力を育てる早川中教育の創造』	基礎学力の向上「総合的な学習の時間」の深化より良い評価の工夫	・生徒の基礎学力を向上させるためのより良い指導法・生徒が自らの課題を解決するための総合的な時間の取り組み・生徒のやる気を引き出す絶対評価	
	中富中	わかる授業・生き生きとした生活の創造	新しい自分の発見	教科・総合的な学習の時間・道徳を通じてコミュニケーション能力を育成し、自己肯定感の確立につとめる。個に応じた学習によって、基礎学力の向上を図り、自己肯定感の確立につとめ	
	南部中	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	自治的能力を高める生徒の活動をどう展開するか	学級集団作り、生徒活動、総合的な学習の3ブロックに分かれて生徒の自治的な能力を高める研究を行っている。	
	万沢中	生きる力の基盤としての豊かな心の育成	表現力の育成を通して	すべての教育活動を通じ、生徒がしっかり考え、自由に発表し、互いの考えを尊重できるような確かな表現力と理解力をつけさせる方法を研究する。	地域ふれあい道徳教育推進事業10月24日
	下山中	自ら主体的に判断し、行動できる生徒の育成	「セルフ・エスティームを育む教育活動を通して」	「セルフ・エスティーム」を育むことをねらいに、教科・特別活動・道徳など、教育活動全般を通して、全体研究を中心に取り組みをすすめる。	勤労生産学習推進校、地域ふれあい道徳教育推進事業
	増穂中	「生きる力」	主体的に学び、活動する生徒の育成	自分で課題を見つけられる力、意欲を持って活動できる力、積極的にコミュニケーションできる力の3つの力を育てるための教科指導の研究。総合的な学習の時間の指導計画の改善と評価	(県)わくわく読書活動推進指定校
	富河中	21世紀を主体的に生きる生徒の育成	「生きる力」をはぐくむ教科・道徳の授業実践を通して	生きる力をはぐくむ工夫を取り入れた授業実践を行う。また、授業を行う際、評価計画について記載し、評価に関して検討も行う。また、生きる力をはぐくむ工夫を取り入れた道徳の授業実践を通して、物事に主体的に取り組める生徒の育成を図る。	(県)地域ふれあい道徳教育推進事業指定地域11月26日
	身延中	自ら学び意欲的に活動する生徒の育成	生徒の確かな学力向上を目指して	生徒一人一人に応じた学習活動がより可能になる、地域・学校・生徒の実態に即した教育課程を実践する。学習指導における一定の目標(基礎的・基本的学習内容)を定着させ、生徒一人一人の確かな学力を身につけさせるための学習活動を創造する。本校の絶対評価の規準を検証し、指導との一体化を明確にしていく。道徳の年間計画の検証と、計画の基づいた実践とSHDの活用をすすめる。本校に定着した、啓発的体験学習(進路学習)を軸とした「生き方学習」の見直しをしてさらに充実・発展させていく。	(文部科学省)学力向上フロンティアスクール
	鯉沢中	自然や地域に学び、郷土を愛する心を育てる道徳教育の推進		地域の文化伝統を大切にすることを育てる道徳教育の実践研究	(国)平成14・15年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業11月27日
	韮崎西中	自ら学び、考え、行動しようとする生徒の育成	学習活動(教科)の評価と支援を通して	教科領域に焦点を絞り、生徒の実態把握をもとに、それぞれの教科で昨年度作成した規準表の妥当性を探ると共に、学習のねらいに伴う評価のあり方や教師の指導(援)について教科研究	
	韮崎東中	『生きる力』をはぐくむ学習活動の研究	生徒の力を伸ばす評価活動の研究(2年次)	絶対評価による評価活動の明確化を図るために、昨年作成した評価基準の検証を行う。「生徒の力を伸ばす評価活動」の意識を高め、授業のあり方の工夫・改善を図る。各教科ごとに、規準に達していない生徒への手だてを考える。総合的な時間における学習活動の計画を立てる際に、「生徒につけたい力」を明確にし、評価規準との一体化を目指す。	
	須玉中	[生きる力]を支える「確かな学力」の向上を目指した学習活動の展開	生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を通して	生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を通して、「生きる力」を支える「確かな学力」の向上を目指していく。研究内容は、(1)個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫と改善、(2)主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫と改善で、実践領域は、「必修教科」「選択教科」「総合的な学習」である。	学力向上フロンティアスクール指定校
	泉中	豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成	環境教育を通じた生徒の自主性・自立性の育成	総合的な学習の時間を中心として、地域の環境面に目を向けさせ、地域の環境活動等を理解して、自主的に参加する生徒の育成を図る。教科の学習においても積極的に環境に関わる素地の育成を図る。地域の素材・人材の活用を図り、環境学習を生徒の身近なものとする。	地域を育てる環境活動推進研究指定校(県教委指定)
	増富中	生きる力を育てる増中教育の創造	小規模校の長所と課題を見すえて	「道徳」に焦点を絞り、①道徳の授業の意義と持ち方について、②道徳の授業と地域との関わりについて、③具体的な授業内容について、の3つの視点から研究主題にせまる。また、①基礎基本の徹底を図る指導法を各教員が工夫しながら実践する、②調べ学習や文化的な教育などについての少人数を生かした実践を行う、という実践事項を設けて、研究主題に迫ろうとする。	(県)地域ふれあい道徳教育推進事業10月15日

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	長坂中	生徒一人ひとりの個性を伸ばすきめ細かな指導の在り方	教科・道徳の実践をとおして	学力の定着をめざす教科指導の実践、めざす生徒像をふまえた道徳の実践、朝読書活動の推進	
	武川中	生きて働く基礎学力の向上を目指して		生きて働く基礎学力とは何かを理解し、各教科で身につけさせたい内容を具体化し、実践に結びつける研究。	(県)基礎・基本の学力の定着に関する研究(国語)
	明野中	生徒の学ぶ意欲を高める評価の研究		各教科における絶対評価の課題を明らかにし、評価と指導の一体化を図ることを追求していく	ボランティア活動研究推進校 省エネルギー教育研究校
	白州中	人間性豊かな生徒の育成を目指して	地域に開かれた道徳の授業の実践を通して	豊かな人間性を身に付け自立的に道徳実践のできる生徒の育成を目指し、家庭や地域との連携のあり方、効果的な地域人材の活用、他の教育活動との連携を踏まえた地域に開かれた道徳実践について研究を進めていく。	(県)地域ふれあい道徳実践授業
	高根中	豊かな心を持って、たくましく生きる生徒の育成		①道徳教育の実践、地域ふれあい道徳教育推進事業の実施地域人材を活用した道徳授業②観点別評価、教科部会を中心に評価規準表の作成③10年研修への取り組み、研究授業の実施等	地域ふれあい道徳教育推進事業 未定
	小淵沢中	「生きる力」をはぐくむ学びの場の創造	総合的な学習の時間「八ヶ峰」を中心とした学習指導・支援の工夫	総合的な学習の時間を実践していく中で、その学習内容・方法等についての検証を行う。また、選択教科の拡大に伴い、新しい形態の選択教科への取り組みについても実践研究を行う。評価規準を意識した普通の授業の実践と、評価基準を設定した評価のあり方を実践する。また、小淵沢町教育委員会の指定を受けた、公開研究会も計画している。	
	双葉中	「生きる力」をはぐくむ学習活動の研究	指導と評価の一体化を図る研究	教育課程に位置付けられた教育活動について、指導と評価の一体化を図り、「生きる力」をはぐくむ教育活動となるよう研究を進める。	
	吉田中	民主的で、鍛え合い、成長できる学級づくり	指導の観点を明らかにし、どのように生徒に迫っていくか	1.学級集団づくりの基礎、基本を学ぶ。特にプロ委の持ち方、集会の運営、学級活動、学級の宝等について実践発表をもとに学びあう。2.行事を通して集団や組織の役割を明らかにする。3.講師を招請して学級作りについて学ぶ。4.授業の研究を行う。	
	下吉田中	自ら学び、考え、活動する生徒の育成	子ども達が高まり合う集団づくりをとおして	研究主題は昨年度からの継続とした。ただし、内容については教科中心の昨年度から、今年は学級活動を中心に据えた研究にした。学級の中になんらかの意図的な法則的なはたらきかけをすることによって、統一された目的をもたせ、行動と責任を分かち合わせるような学級集団をつくる研究をしていく。	
	富士見台中	生きる力と豊かな心を育む評価の創造	「目標に準拠した評価」の研究を通して	各教科および総合的な学習において、評価の規準(基準)を設定し、公平性・客観性・信頼性の高い評価を行う。	
	明見中	活動をとおして生徒に生きる力をつける学級づくり		生きる力をつける学級づくりについて学級活動に関係した実践報告を通して研究する。	学力向上フロンティア事業指定校 2年間の1年目で公開は未定
	西桂中	厳選凝縮された学習指導要領の趣旨を生かす特色ある教育課程	指導計画整備と評価の在り方から	①全教科の評価に関する学習と具現化○通信表の機能整備と説明責任に関する規準整備②特色ある教育課程を創造する教師に求められる力の充実・情報活用能力(特にプレゼンテーションの力)を充実する研修・教育職公務員に関わる法をより一層深く知る・研修の機会を生かし生徒と研究同人に還元できるように努める・実践や実践報告、各種通信による提言や情報公開③即時対応を求められる課題の解決・上記①②に関わるもの、それ以外のものへの対応	
	都留二中	学級経営において、集団作りを充実させることにより、自治のできる生徒を育てる研究	班、リーダー、討議作りを中心として	学級経営において、中心的な活動である、班、リーダー、討議作りを中心に、理論はもとより、実践的なレポートを用いて、その時期に合わせた内容を研究する。	
	東桂中	「視野を広げ、感性を揺さぶり、生きる力を高める授業の創造」	――「総合的な学習・外部講師及び放課後学習チューターの活用・道徳授業」を通して――	本年度の研究主題及びサブテーマを受けて、各学年のテーマに沿った「総合的な学習」、「外部講師及び放課後学習チューターの活用」、「道徳の授業」についての実践研究をしていく。本年度は、特に研究指定校として、各教科・道徳・特活等学校教育活動すべてにおいて、生徒一人ひとり、どのように学習チューターを活用すれば教育効果が高まるのかの研究を実践を通し、工夫改善し、有効な活用方法を校内研修として、全職員で学習していきたい。	文科省指定平成15・16年度放課後学習チューター配置調査研究校、地域道徳教育指定校
	都留第一中	自ら考え、たくましく生きる力を育む特別活動	自主的・自治的な生徒の活動を目指して	特別活動において、教師が意図的・計画的に生徒に働きかけ、生徒自らが企画・運営していく実践を積み重ねることで、自主的・自治的な生徒の活動が活性化していくであろうという研究仮説の元、学級活動、生徒会活動の実践研究を進める。	
	勝山中	自ら学び行動できる生徒の育成		昨年度から完全実施された教育課程の本校におけるあり方を研究する。具体的には、「総合的な学習の時間」「選択授業」「必修教科の授業研究及び評価研究」である。具体的には各実践を互いに見合い、討議により評価できる点、課題点を明らかにして行っていく。	
	河口湖北中	一人一人がよりよく生きる学級づくり	話し合い活動を中心にして	昨年度と同じテーマであるが、本年度は、昨年度の実践をさらに深めていくために「話し合いを仕組むとはどういうことか」ということに焦点を絞り、研究を進めたい。具体的には、坂本光男氏の「学級集団づくりの原則」を参考にしながら、お互いの実践に学び合いながら主題へと迫っていきたいと考える。	豊かな体験活動推進事業、基礎学力向上山梨プラン推進事業、公開は特になし
	道志中	豊かな心を持ち主体的に生きる生徒の育成	「主体的に学ぶ態度の育成」と「基礎学力の定着」を目指した評価の工夫	研究対象は各教科。各教科において、評価を生かした授業を工夫することによって、生徒の主体的に学ぶ態度を育成し、それとともに、基礎学力の定着を図るために、次の項目について研究する。①評価の種類、特徴②教科と評価の結びつき③評価を生かした授業展開	遠くの町
	河口湖南中	自立的な学びと協同的な学びを通して、個々が尊重される授業づくり	授業開放と意見交換のできる開放された同僚性の確立を通して	昨年度の研究成果を継続した形で今年度の研究をスタートしました。「授業づくり」「道徳」(地域ふれあい事業との関連)「総合的な学習の時間」の3本柱を設定し、研究推進委員が研究の中心となって研究を進めていきます。各月ごとの全体会では、3本柱の実践報告を中心に、研究を進め、学年・教科内での授業交流を通して、授業づくりの観点を見つけ出していく予定です。	
	西浜中	自ら主体的・創造的に活動できる生徒の育成	総合的な学習の時間の実践を通して	総合的な学習の時間に太鼓活動、各学年のテーマに沿った課題解決学習、体験活動を通しての課題別学習を設定することを通して、自ら主体的・創造的に活動できる生徒の育成を目指す。	
	山中湖中	一人ひとりに人間としての豊かな成長を促す学級集団づくり	日常の班活動、当番活動、学級集団づくりのさまざまな活動を通して	①班づくり、学級集団作りの理論や実践を書物や講義によって学ぶ。 ②日常の班活動や当番活動を積極的に進め、成果と課題を明らかにしていく。 ③学級集団づくりのためのさまざまな実践を研究する。 ④リーダー作り、学級集団づくり、話し合いの持ち方、班作りの仕方などの問題点を探る。 ⑤学級、学年、全校との連携を密にした組織的な活動を探る。 ⑥生活時程の工夫を図る。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	忍野中	子どもの現実を起点に、行為・行動を作り出せる学級集団づくり	～科学性に基づいた日々の具体的実践をとおして～	昨年までの3年間計画で、「総合的な学習の時間」の運用に関わる研究を行ってきたが、その活性化には「学校の基本単位である学級集団」の好ましい発達が必要と感じられるようになってきた。その学級と現在進行形の総合について科学的検証を行う。	
	秋山中	意欲的に学習する生徒の育成をめざして	「評価」「総合的な学習の時間」をとおして	評価に関する研究、総合的な学習の時間に関する研究	地域ふれあい道徳推進事業
	猿橋中	学習に意欲的に取り組む生徒の育成をめざして	基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫	昨年度までの「進路」に関わる研究をうけ、生徒一人一人がより高い目標に向けて努力しようとする意欲と態度を養っていきたく考えた。そのために、自分の進路や願いに向けて全力で打ち込んでいけるだけの「基礎学力」を身につけさせたいと考え全教科の授業において基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫を行うこととした。	
	大月第一中	生き生きと主体的に活動する生徒の育成	新しい評価規準・評価方法の研究とメディア活用能力の育成を通して	昨年度作成した評価規準の見直しと評価方法の充実を図り、より適正な評価の実現を目指す。また、昨年度から継続して、主なコンピューターソフトのマニュアルを作成・整理し、生徒・教師に対するコンピューターリテラシーを充実させる。総合的な学習の時間についても、校内研の中で問題点の洗い出しや学年間の調整を行う。	(県)「農業啓発事業」勤労生産学習推進校
	梁川中	自主的・主体的な生徒の育成	自らよく考え、活動できる授業の展開の工夫	授業研究と総合的な学習の時間を研究の対象とする。授業研究では、一人一実践を基本に、各教科・道徳について研究授業を行う。授業案検討を小グループで綿密に行い、研究会に臨む。特に生徒が主体的に考え、活動できる場をいかに展開し、指導していくかを討議の中心としていく。総合的な学習の時間では、情報交換を中心に生徒の実態にあった指導、助言ができるよう全職員で共通理解を図っていく。また来年度の指導計画に生かせる意見交換を行っていく。	
	大月東中	心を育てる	エイズ教育(性教育)を通して	昨年度の研究成果を踏まえ、生徒・保護者・教師のエイズ(性)に関する意識の実態調査を実施し、その把握に努めるとともに、年間指導計画にしたがって創意ある授業を実践し、指導計画及び授業案の改定を行う。また、エイズ(性)に関係する集会活動のあり方について検討する。併せて学校での授業実践と連動した広報活動や講演等を通して保護者・地域の啓発を行う。	(国)エイズ教育(性教育)推進地域10月21日、(県)地域ふれあい道徳10月21日
	富浜中	自ら学び、自ら考える生徒の育成	基礎・基本に習熟させるための指導の工夫と、個に応じた授業展開の模索	教科・道徳・特別活動における授業研究、および基礎・基本に習熟させる指導法の研究。教師の指導力および生徒の道徳的実践力を高めるための、「地域ふれあい道徳」の研究。菊づくりなどの体験的学習・朝読書をとおして、豊かな心を育てるための研究。総合的な学習・選択教科の時間の実践と実践に伴って生じる問題点の解決に向けての研究。目標に準拠した評価(絶対評価)についての研究。	
	七保中	自ら学び行動する、心豊かな生徒の育成	人とふれあう力をどう育てるか	教科・道徳・特別活動の3つの柱で研究を進めていく。①教科について「授業を通して、生徒の意欲・向上心を高めるための支援」「グループ活動の仕組み方・発表方法などの工夫」②道徳について「特別活動・総合的な学習との関連づけ」「人とのふれあいを通して考える思いやりの心をどう育てていくか」③特別活動「体験活動を通して、多様な生き方との出会いをどう仕組んでいくか・社会的自立をどう促していくか」	
	西原中	主体的に学ぶことのできる生徒を育むための指導に関する研究	①総合的な学習の時間と教科の時間の連携②教科と総合的な学習の時間における評価の研究	総合的な学習の時間によって高めることができる課題解決能力と、主体的に課題に取り組む姿勢を各教科に生かすことにより、さらに質の高い各教科の授業実践が展開でき、この総合的な学習の時間と教科の学習の時間を通してたくましく生き抜く力を持った生徒の育成を目指す。	
	丹波中	主体的に活動する生徒の育成	主体性を育む指導の追求	昨年度までの3年間は、生徒が積極的に参加する授業づくりを研究してきた。今年度はその研究の上に、各教科での主体的な授業を作る評価のあり方の研究と、これまで取り組んできた総合的な学習を、より生徒主体のものにしていくことを目指して、その指導のあり方を見直し、実践研究を行っていく。	
	島田中	自ら学び、主体的に活動する生徒の育成		これまで実践されてきた総合的な学習の時間の内容、指導計画、予算、評価などを再検討し、総合的な学習の時間を深めていくこととともに、各教科の評価方法についての研究を行って	
	平和中	主体的・創造的に生きる心豊かな生徒の育成	「総合的な学習の時間」への取り組みを通して	本校の研究主題は学校教育目標を具現すべく研究を推進することを基本に設定されている。研究対象領域は「総合的な学習の時間」である。「総合的な学習の時間」において問題解決的な学習を取り入れていくことで研究主題が達成されると考える。過去3年間の研究では「総合的な学習の時間」の学習内容や指導方法が検討された。本年度はT Tや教科ととの関連に視点をあてて「総合的な学習の時間」を検討していく。	
	小菅中	生き生きと主体的に取り組む生徒の育成	生徒の主体性を引き出す学習活動の中での評価のあり方	各教科の学習活動における評価方法について研究を深める。領域・教科にこだわらず、小菅中学校の生徒の実態に即した評価基準表を作成していく。また、その研究の中で先進校視察・講師による学習会を積極的に行っていき職員全体で学習を深めていきたいと考える。	
	巖中	豊かな心を持ち、生き生きと主体的に学ぶ生徒の育成	『確かな学力』の向上に向けた取組	本校では、文部科学省より平成15・16年度「学習指導カウンセラー派遣に係わる調査研究事業」の研究指定をうけました。研究指定の趣旨にのっとり、生徒の学習状況の把握、教育課程の自己点検・自己評価を行い、どのような学習指導の在り方が、生徒一人一人の確かな学力向上につながるかを全教科・全教職員で研究していきたいと考えている。	「学習指導カウンセラー派遣に係わる調査研究事業」指定校
	桐原中	自ら気づき考え意欲的に行動できる生徒の育成	総合的な学習の時間の研究と実践を通して	本校では、総合的な学習の時間を「総合・個人」「総合・学年」の二本立てで実施しており「総合・個人」では生徒一人一人が各自のテーマを設定し、それについて探求、追求をおこなっております。この「総合・個人」において、各生徒が適切に各自のテーマを設定できるための支援の在り方やアクティブな探求活動を巻き起こすための支援の在り方について研究したいと考えております。	
	上野原中	客観的に自分を振り返り、次に生きる自己評価ができる生徒の育成	なし	書かせることを基本に、相互評価を効果的に用い、段次的・長期的に自己評価活動を取り入れることによって、次に生きる自己評価の能力が育つことを研究仮説に据え、学級活動部門と教科研究部門の2部門で研究を行う。学級活動部門では本校独自の「あしあと」というノートを利用して、それを生徒が一日の振り返りとして活用していき、相互評価を適宜の用い、生徒の変容をみていく。教科活動部門では、学習会や討議を通じて、全職員の共通理解のもと、評価方法を確立させ、実践していく。各学年で1つの研究授業を行い、その自己評価活動及び評価	(国)学力向上フロンティア 2004本公開
	甲府南高	新しい時代を切り開く道筋としての南高活性化	新教育課程実施に伴う授業の工夫と教育活動の充実	新教育課程の実施及び学校週五日制に伴う諸課題を検討し、生徒の個に応じた教育を踏まえ、教育活動を充実させるための研究を行う。教科の研究においてはシラバスの作成に取り組み、その成果について研究する。	
	甲府第一高	確かな学力の向上のために、基礎学力の定着を図る指導方法の研究		1. 生徒の興味・関心・能力を引き出すような教材の開発 2. 単元別シラバスで示した到達目標を達成させるための指導方法の研究 3. 基礎学力の定着を図る家庭学習の在り方 4. 基礎力・思考力の評価につながる試験問題の工夫の中から選択し、各教科で行う。	
	甲府工業高	各教科、学科においてマルチメディアを活用した授業を展開しその成果を検討する	生徒一人一人の個に応じた分かり易い授業を展開するために。	1. 領域、内容、研究対象の限定—各教科・学科において。2. 目的、目指す子供たちの姿—一人一人の個に応じた、分かり易い授業をするために。3. マルチメディアを活用した授業を展開し、その成果を検証する。	学力向上フロンティアハイスクール事業5月1日
	甲府西高	指導と評価の一体化に関する研究		「シラバスの作成から評価は一連の流れ」という観点から、生徒の実態に応じた目標の設定と、それをどのような観点から、どのように評価するか、各教科において検討する。	



都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	甲府商業高	生きる力を育む教育課程にの実施と一人一人を生かす学習指導の充実	進路決定にあたり主体的に判断し行動できる能力の育成	個における指導の充実をはかる為に外部教育機関との連携、学校設定科目(甲府商科での中国語講座)、インターンシップの充実をはかる。幅広く教養を高め、小論文を含む進路指導に生かす	
	甲府東高	基礎・基本の確実な習得を図る指導の研究	個に応じた指導としての到達度学習の工夫とシラバスの活用	生徒一人ひとりの習熟の度合いに応じたきめ細かな指導を充実させ、生徒個々の基礎学力を確実に定着させるため、①授業計画表の作成・点検・改善 ②授業計画表に明記する到達目標などの生徒との共有化 ③到達度試験とその補習 ④教員どおしの授業見学を通じた授業改善 ⑤進路指導の3年間の流れの明確化 ⑥基本的な生活習慣の確立による学力の向上 について、実践研究する。	(県)基礎学力ステップアップ推進事業 公開なし、(国)平成15年度教育課程研究指定 公開なし、(国)学力向上のフロンティアハイスクール事業 公開なし
	白根高	新教育課程の実施を踏まえ、「わかる授業」をより進めるための指導および評価方法を研究する。		グループ研究として、英語科は文法指導について、数学科は学習意欲の喚起と定着について、教務係が評価について、生徒指導係が学習環境の整備について、研究する。個人研究として全員が教科指導について実践研究する。	
	巨摩高	自ら学ぶ意欲を高めるための指導法の研究	①基礎・基本の定着と学習意欲を高め、さらに学力を高める授業の展開②自ら考え、自覚的に生活規律を確立できる生徒の	各教科については研究主題及び副題に沿い、生徒の実態の把握を踏まえて、その事実即した指導法の研究を行う。各分掌も教科に準じ、テーマを設定して研究を行う。	
	甲府昭和高	基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的な学習態度を育成するための授業研究		教科が中心となって、昨年度に引き続き同じ主題で研究を進める。学年では、各学年が抱える課題に対する研究を行う。本年度から、1校時の教科担任が指導という朝読書が実施されるので、生徒の授業取り組みへの効果などを検証する。また、全教員の授業公開も継続して実施する。学習計画表(シラバス)の配布は、昨年度の研究に基づき様式・配布時期の統一を行い、本年は生徒の活用を促進する為の研究を進めている。	
	農林高	農林高校をステップアップするための生徒・職員の改革	一確かな学力を身につけ自ら学ぶ姿勢の涵養	生徒の学習意欲や学力の向上を企図し、シラバス、年間指導計画、評価基準について教育実践の中で検討・改善を図るとともに「自ら学ぶ」姿勢を涵養させるための工夫を教務・生指・進路・学年団等で試み、研究を進めていく。	文部科学省指定一学力向上フロンティアハイスクール事業一、山梨県指定一基礎学力ステップアップ推進事業一
	塩山高	未来を拓く生徒の育成推進事業		中学と高校との交流教育のサポート 課題解決能力・表現力・奉仕の精神を育てる学習サポート 豊かな人間性を育む教育講座 中学とその保護者に地域住民に本校の教育実体について啓蒙する。総合的な学習等を通じて調べたことをまとめ発表する。優れた音楽の演奏を鑑賞することで豊かな感受性を育む。	
	山梨高	シラバスについて	生徒の学習意欲を喚起するために	全教科で、各定期テスト単位に、生徒が実際に利用し得るシラバス作りを進める。とくに生徒が所属する類型やコースに応じて到達目標を分類し、生徒に到達の優先順位がわかるようにする。年度末にシラバスの利用状況を調査し、学習成績との関連を分析する。	
	日川高	基礎学力を確実に定着させ、向上させるための指導法の研究	「個に応じた指導」「自ら学び、自ら考える力」を育成するための教材の開発		「基礎学力ステップアップ推進事業」「学力向上フロンティアハイスクール推進事業」
	石和高	総合的な学力調査実施に関わる研究		新学習指導要領に定める目標等の実現状況の把握に関する研究。	全国的かつ総合的な学力調査実施に関わる研究
	山梨園芸高	安全文化の確立		昨年度は交通安全については学校設定科目「安全教育」を1年生の必須科目として位置づけ授業として実施してきたが、係りが主体的に行っている状況であった。本年度は「安全」をテーマにし「総合的な学習」の時間で展開していく。1年(交通安全)、2年(精神の安全=こころ)、3年(経済・社会の安全)として学校全体、教職員一丸で面としての取り組みをしていく。	「交通安全教育実践地域事業」(国) 公開日未定
	市川高	豊かな心と「よく生きる力」を育てる指導法の研究		各教科から研究委員を選び、学校の指導目標を基に校内研究主題を決定。授業実践報告を主に①考える力と自らを問う態度の育成②完成を育てる授業に実践。③分かる授業の実践。観点別評価の実践を踏まえた内容にする。	
	身延高	豊かな人間性と社会性を身につける指導のあり方に関する研究	NIE等を利用し、思考力・表現力・想像力を育成する	NIEを授業や特別活動に取り入れることにより、生徒の思考力・表現力・学ぶ意欲を高める方法を工夫し、「自ら学び考える力」がいかに育てられるか研究し、教育課程の改善に役立てる。	(県)NIE実践指定校11月19日、(国)生徒指導研究推進校
	増穂商業高	基礎学力ステップアップ推進事業・学力向上フロンティアハイスクール事業		今年度の基礎学力ステップアップ推進事業を踏襲して、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かい指導の一層の充実を図りたい。学習意欲や学力の実態把握と学習指導の目標設定、生徒の実態等に応じた習熟度別学習指導、教材開発、シラバスの作成および指導内容、指導方法の改善・充実、および評価基準、評価方法の研究開発等。研究対象学年は、来年度は2年生、翌年は3年生、再来年は全体の検証をしまとめとしたい。研究対象教科は全教科とする。	学力向上フロンティアハイスクール事業公開日は未定
	韮崎工業高	特色ある新教育課程をどう定着させるか		「5学科一括募集」と学科にとらわれない総合選択制、ミックスホームルームと系列制の実施、2学期制の導入。	
	北杜高	生徒の学力向上を図るために	①基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。②主体的な学習態度を育成する。	全教科において、授業の改善・工夫のために授業の公開・授業アンケートの実施を行う。また、シラバスの見直しをして、生徒にわかりやすいもの、評価対象がどのようなものなのかを知らせられるように作り上げていく。	(県)基礎学力ステップアップ推進事業、(国)学力向上フロンティアハイスクール
	韮崎高	主体的な学びを通して、生きる力を育む生徒の教育支援活動の推進	学習習慣を確立し、自ら学び考えて行動する生徒の育成	自ら意欲的・主体的に学び、考え、判断し、さらにコミュニケーションをするための表現力や実践力など生きる力を育成するために、問題解決学習や体験的学習を重視した教育活動を展開する。各分掌・教科においてこのための教育内容を検討し実践する。また、基礎的・基本的学力の定着を図るために学習内容を精選するとともに教材や指導法を開発、工夫する。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	吉田商業高	確かな学力の定着をはかる	教科や生徒指導により基礎・基本の定着をめざす	各教科・学年・分掌などの教育活動を通じて基礎学力の確実な定着がはかれるようにする。また学習環境を整えて、主体的に学姿勢や学ぶ喜びが感得できるように、指導内容・指導方法・教育課程全体の工夫改善について研究する。	
	吉田高	総合的な学習を通しての進路指導について	高大連携講座を通して	総合的な学習の時間で、どのようなことを実施していけばよいのか、と進路指導とどのように関わっていけばよいのか、についての研究。	
	谷村工高	生徒の主体性を育てる教育活動の推進	1 基礎学力ステップアップ推進事業 2 課題研究・ものづくりの推進 3 ボランティア活動の推進	いずれの事業も昨年度より継続されているものだが、1については、学力を付けさせるために各教科で様々な取り組みを行っている。今年度は、評価基準の研究開発にも力を入れていく予定である。2については、主に3年生の専門科目における課題研究の時間を使い、ものづくりやプレゼンテーション能力を伸ばすことに力を入れている。なお、今年度も公開発表会を実施する予定である。3については、奉仕委員会を中心にして全校生徒に呼びかけているが、夏休み等、特別活動の時間を充てている。	「県・基礎学力ステップアップ指定校、市・ボランティア活動協力校」
	桂高	現代社会に対応した高校教育の在り方		①教育現場における情報機器のやそのネットワークの効果的・効率的な活用が推奨されるなかで、本校の「教育の情報化」はさらなる発展が期待される状況にある。この傾向を具体的に展開し、今後の教育活動の中に定着させて、「現代社会」に対応させていく必要がある。 ②教育現場での諸活動を円滑に行うために、学校と地域社会とは、より密接な連携が必要とされる時代となっている。本校から地域社会に積極的に働きかけていく方向性を今後の教育活動の中で具体的に展開し、「開かれた学校づくり」に対応していく必要がある。	
	谷村工業高 定時制	学校評価のあり方について	なし	学校評価の評価項目ならびに学校改善への役立て方などについて検討する。	
	富士河口湖高	豊かな体験活動推進事業	ふれあい福祉・ボランティア活動推進事業	学校行事・各学年行事を柱に、様々な分野内容の体験を通し地域・社会を知るとともに、「福祉・ボランティア」について理解を深める。	平成15年度文部科学省豊かな体験活動推進事業、山梨県ふれあい福祉ボランティア活動推進事業
	大月短期大学 附属高	自ら学び、自ら考える力を育成する指導のあり方に関する研究		自ら学び、自ら考える力を育成する指導のあり方に関する研究。生徒の状況や社会の状況の変化の中で、学力の意味が問い直されている。中でも、生徒に豊かな人間性や、自ら学び、自ら考えようとする力、いわゆる「生きる力」を育成することが重要な課題となっている。このような目標を実現するためには、各教科・科目で指導する内容とその方法を大幅に見直しを行うことはもちろん、さらに、意欲や態度をどのように評価するかという方法についての検討も不可欠である。(教科・領域はないです)	(国)エイズ教育
	都留高	「進路指導計画の改善・充実を目指して」	ーキャリアガイダンス・総合学習・進路別ガイダンスの連携を通して主体的な進路選択の実現を図るためにー	本年度は現在の「進路指導」(特にガイダンス機能)の実態を検証する。具体的には、1年次のキャリアガイダンス、2年次の総合学習、3学年の進路別ガイダンスについて、実施内容を整理し検証を行う。また、各ガイダンス等に対する生徒の受け止め方や意識について調査を実施する。併せて、各年次・学年の進路指導・ガイダンス等の連携について検証を行う。	(県)高等学校「進路指導研究推進校」
	上野原高	各教科による総合的な学力調査の実施	新学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を把握する	本年度、国立教育政策研究所教育課程研究センターより平成15年度全国のかつ総合的な学力調査の実施に係わる研究指定校の依頼があった。教科は、保健体育と英語である。そのため、全校で対処するために他の教科も同じく研究することになった。新学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を把握するをテーマに本年度より研究を開始することになった。	
	かえで養護	新しい学校づくりをめざして	ー教育課程の検討ー	学部毎に副主題を掲げ、教育課程の検討を行う。小学部は国語・算数、中学部は作業学習、高等部は進路学習を取り上げ、授業づくりの過程を通して、子ども理解の視点を深め、教育課程編成上の基本的な考え方について検討する。	
	山梨県立ろう学校	生きる力を育むために	自立活動の実践から	「自立活動」の内容や系統性については各学部で確認され、整理された。今年度は確認された指導内容をどのように具現化し、指導していくのか、指導方法や教材について、学部毎に研究を深めていきたいと考える。そのために研究授業・研究会を充実させていきたい。また「自立活動」他の領域・教科ともかかわる内容も多く、実践を重ねながら、さらに内容等を検討していきたい。	
	山梨県立わかば養護学校 ふじかわ分校	個々の実態に即した教育課程をめざして	授業作りを通して	昨年度より授業作りに視点をあて、教育課程の検討を進めている。本校の特徴として、児童生徒が少人数であることが上げられる。実態も様々であることから、指導内容・方法、学習集団等課題も残されている。そこで、今年度も授業実践を深めながら、教育課程の検討を進めていく。具体的には、学部毎進める。小学部は「あそび」、中学部は「美術」について研究を進める。	
	山梨県立富士見養護学校 旭分校	人と関わる力を育てるための支援のあり方	対人関係の実態分析から支援方法を考える	集団活動における、生徒の対人関係の実態を分析し教員の支援の内容を検討することによってさらに良い支援のあり方が明確になるであろう。	特総研「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎研究」の研究協力校
	やまびこ養護	生きる力を育む指導方法のあり方		【研究対象/指導方法】①新学習指導要領や今後の特別支援教育の在り方を踏まえ、本校における教育課程編成に生かす実践研究と指導方法のあり方を研究する内容。②豊かな生活を育み生きる力を培う学習指導のあり方を研究する内容。③児童生徒の実態や現状の分析を大切にしながら、個別指導や教科などの授業づくり(寄宿では生活に視点をあてて)を通して、学部の研究を主体にしながら実践を中心にした研究。	
	山梨県立ふじさくら養護学校	子どもが自ら力を発揮できる学習活動のあり方	学習の系統性に注目して	実際の子どもの像を基に、子どもが自ら力を発揮していくにはどのような学習活動が計画されるべきか、小・中・高の各学部を主体として実践研究を行う。各学部それぞれグループに分かれて研究を進め、学習目標、学習内容、学習方法を再度見直し、系統性や適時性を検討する。それぞれの学習活動における系統性の意味するところを探り、それに伴う課題を明らかにすることで教育課程の充実を図る。	
	盲学校	個々の能力を最大限にのばすための教育実践の工夫		研究主題のもと、重複障害児教育、全盲児・生の学習指導、教科指導、理療教育、中途視覚障害者自立支援、寄宿舎教育の6グループに分かれ、それぞれの視点からテーマを設定し研究を進める。幼児・児童・生徒の実態を的確に把握し、その発達や実態に即した指導内容・方法、指導の系統性について常に問いかけ、検証を重ねていくことで、視覚障害教育に携わる教師としての専門性を高めていくことにもつながると考える。	
	山梨県立甲府養護学校	一人一人の自立に向けた教育支援の在り方～個別の教育支援計画作成に向けて	個別の教育支援計画作成に向けた個別の指導計画の充実	特殊教育から特別支援教育への流れの中で、課題となるものがいくつかある。教育支援計画の作成もその中の一つである。本研究においてはそのような時代の要請と、現在もなお課題となっている個別の指導計画を絡め主題を設定し、今年度は副主題のもと研究を進めることとした。さらにグループごとに焦点化し、研究を深めていく。	

都市	学校名	研究主題	研究副主題	研究内容	研究指定
	山梨県立あけぼの養護学校	一人一人の実態に応じたより良い学習指導を求めて	小学部：「一人一人のより良い自立活動の指導を目指して」、中学部(未定)、高等部「進路指導のあり方～卒業後の望ましい進路選択に向けて～」、「思春期における子どもたちの心の動きを	児童生徒の実態が多様化している本校の実情に即して、学部や教育課程でグループやパートに分かれ、それぞれの対象となっている児童生徒の理解、自立活動や特別活動、総合的な学習の時間などの指導、進路指導などの視点からより良い学習指導のあり方を探っていく。	